

学校の今に寄り添い、先生方とともに未来を描く

[ビューネクスト] 高校版

VIEWnext

2023
February

2

神奈川県立
厚木高校

Photo Session at Cover

特集

どうすればつながる？

観点別評価と 指導・学習改善

指導変革の軌跡

東京都・私立

日本大学第三中学校・高校

発問・課題設定をキーに見る

主体的・対話的で深い学び 授業実践

国語

群馬県立桐生高校

佐藤真紀子

数学

福井県立美方高校

西繁寿

みかた
しげひさ





本当に大切なことに
気づくには？

未来を描く！創る！
イノベティブな
生徒たち

写真右から、佐藤さん、石川さん、伊藤さん。

第 11 回

幸せに生きるための力を育む 包括的性教育の授業を中高生に実施

石川 愛^こさん (高校3年生) / 伊藤煌耀^{こうよう}さん (高校3年生) / 佐藤 楓^{かえで}さん (高校3年生)

東京都・私立都文館グローバル高校

待

機児童をテーマに、1年次の探究学習に取り組んでいた石川愛さんは、スウェーデンの保育について書かれた本の中で、包括的性教育という言葉を知った。

「包括的性教育は、ユネスコが中心となり提示した性教育の国際的な指針で、人間の生殖の仕組みだけでなく、性の多様性やジェンダー平等、性暴力など、幅広いテーマから構成されています。包括的性教育のことを知ったことで、性教育とは、恥ずかしがりながら学ぶものではなく、人が幸せに生きていくために必要な学びなのだと思います。こんな大切なことを私たちは学んでこなかったのかと驚き、包括的性教育のことをみんなにも知ってもらおうと考えました」

中高生向けの性教育に力を入れる産科医の講演を聞くなど、包括的性教育に関する知見を深めた石川さんは、1年生の11月、NIE（*1）の時間を利用して1年生と3年生に包括的性教育の授業を行う機会を得た。包括的性教育とは何か、なぜ日本では行われてこなかったのか、性教育は恥ずかしいものかというイ

読者の先生方がご存じの「イノベティブな生徒たち」をご推薦ください！

ご推薦いただける場合は、右の二次元コードをスマートフォン等で読み取っていただき、フォームに沿ってご推薦内容をご入力ください。



教師たち



東京都・私立
都文館グローバル高校
統括主任
鎌倉好男

ソーシャルアクションが 生徒から生まれる瞬間とは

本校には、社会課題を自分たちで掘り下げ、問題解決のための具体的なソーシャルアクションを起こす生徒は、「being」のメンバー以外にもいます。彼らは、決して特別な経験をしてきた生徒ではありません。普通の生徒であっても、自分の好きなことや得意なこと、関心のあることが社会課題と一致した時には、私たち大人が驚くような活動を始めると、私は考えています。ただ、そうした活動を支え続けていくことは、学校のリソースだけでは不可能ですから、生徒を学校外に送り出し、様々な大人と結びつけることが重要です。「being」のメンバーが現在かかわっているLINEアカウントの開発にも、様々な企業の大人たちが参画しています。「being」のメンバーは、学校とは異なる場で活動する中で、自分の新たな強みを発見し、人生の主人公になる力を獲得すると信じています。

イメージを持ってしまおうのはなぜかといった内容で構成された授業を受けた生徒たちの性教育に対するイメージは変わり、石川さんとともに活動をしたいと考える生徒も現れた。

その1人が、「ルッキズム（外見至上主義）」を探究学習のテーマにしていた佐藤楓さんだ。佐藤さんは、探究学習を通して自分の中に生まれたいもやもやと向き合うため、石川さんとともに包括的性教育の推進に取り組みたいと考えた。

「ファッション業界への興味から、ルッキズムについて探究学習を進めるうちに、化粧品・アパレルといったビジネスは、過度に美白を称賛する宣伝など、購入意欲の促進を目的

とした刺激を人々に与えることで成り立っているのではないかと考えるようになりまし。ビジネスで人を幸せにするとはどういうことなのだろうかとモヤモヤしていたところ、『包括的性教育は、人が幸せに生きるために必要な学問』と訴える石川さんの話を聞き、一緒に活動すれば、自分のモヤモヤを解きほぐすことができるかもしれないと考えました」

伊藤煌耀さんは、石川さんの授業を通して、性に関する知識が「知る必要がないもの」から「知らなければいけないもの」へと変わった。

「それまでの私は、性についての知識、特に女性の身体の仕組みについては、オープンに語り合えないも

の、知る必要がないものだと思いついていました。でも、性に関する授業を堂々と進める石川さんの姿を目にし、また、性のことについてみんなで話し合う経験をしたことで、性についての知識は、人が幸せに生きるために知らなければいけないものなのだと、考えががらりと変わりました。そして、ほかの人にも、包括的性教育を受けるチャンスを提供しようという使命感を抱きました」

同 じ思いを持ったメンバーが、包括的性教育を推進するチーム「being」を結成。中高生を対象にした授業（*2）をこれまで2年間にわたって実施してきた。

「包括的性教育の授業では、男子

生徒にも生理用品に触れてもらったり、生理のことについて学ぶ社会的な意義をみんなで話し合ってもらったりします。ただ、そうした活動に抵抗感を示す生徒もいます。『こうすれば必ずうまくいく』といった最善の方法が存在しないからこそ、試行錯誤しながら、よりよい授業を追究し続けていかなければいけないと思っています」（石川さん）

活動の幅は広がり、2022年度からは、月経周期の管理と性に関する様々な情報収集ができるLINEアカウント「ponoel」（*3）の開発にも協力。全国の学校で包括的性教育の授業を行うという夢もある。自分を知り、自分の生き方を選択する力を育む「幸せになるための学問」を、社会に広く伝えていきたいと、メンバーは考えている。

学校プロフィール

設立 1889（明治22）年
形態 全日制/国際科/共学
生徒数 1学年約90人
2022年度入試合格実績（現役のみ）
国公立大は、山形大、お茶の水女子大、東京工業大などに4人が合格。私立大は、慶應義塾大、国際基督教大、上智大、東京理科大、早稲田大などに延べ108人が合格。海外大学進学33人。

*1 Newspaper in Education の略。新聞などを教材として活用する教育活動。 *2 「being」が行った授業の詳細は、ランドリーボックス (<https://laundrybox.jp/magazine/laurier-ponoel/>) でも紹介されています。 *3 月経周期の管理をしながら、身体や心、人間関係のことなど、誰も教えてくれないにまつわる情報を知ることができるLINEアカウント。 https://www.benesse.co.jp/brand/category/education/20221219_1/

3

特集

どうすればつながる？
観点別評価と
指導・学習改善

- 巻頭 未来を描く！ 創る！
イノベティブな生徒たち
石川 愛さん（高校3年生）
伊藤煌耀さん（高校3年生）
佐藤 楓さん（高校3年生）
東京都・私立郁文館グローバル高校
- 38 これからの進路指導のための
世の中トレンド解説
トレンド・ワード
ウェルビーイング
- 56 Reader's VIEW

<https://view-next.benesse.jp/>
本誌記事は、ウェブサイトVIEWnext ONLINE でもご覧いただけます。

印刷製本／(株)協同プレス
編集協力／(有)ペンダコ
執筆協力／二宮良太
撮影協力／荒川 潤、岸 隆子、ヤマガチイッキ
※本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。 ※本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。
©Benesse Corporation 2023

23 For School Section

24 お勧めの分掌 ▶ 管理職 教務担当 進路担当

指導変革の軌跡
東京都・私立日本大学第三中学校・高校
探究学習の推進

探究学習の準備 # 指導未経験 # 指導計画立案 # チーム・ティーチング

28 お勧めの分掌 ▶ 管理職 教務担当

—疑問や課題を解決！実践につながる！— 新課程レポート
テーマ「総合的な探究の時間」を通じたキャリア・進路観の形成
ウェブセミナー
「学び続ける生徒の育成に向けて、新課程における教育実践と深化」第6回

探究学習とキャリア観 # 社会への興味・関心 # 探究ナビ

32 お勧めの分掌 ▶ 学年団 担任

輝く学年団を訪ねて
長野県小諸高校 3学年団

新しい挑戦 # 初期指導 # 指導サイクルの確立 # スタディーサポート

36 お勧めの分掌 ▶ 管理職

学校危機管理 基礎講座
テーマ 校則に関するトラブル

生徒指導提要改訂 # 校則の見直しのプロセス # 生徒の参画

39 For Teacher Section

40 お勧めの分掌 ▶ 教務担当 担任

発問・課題設定をキーに見る 主体的・対話的で深い学び 授業実践

40 国語
群馬県立桐生高校 佐藤真紀子

古文・漢文の読解 # グループワーク # 文化比較 # ICE ルーブリック

44 数学
福井県立美方高校 西 繁寿

微分積分 # 生徒の問いが起点 # 連続性のある授業 # 数学への取り組み方

48 お勧めの分掌 ▶ 進路担当 学年団 担任

マイ・ストーリーを語る生徒を育む進路指導
千葉県・私立日出学園中学校・高校
2年次 推薦型選抜の準備

メンター制度 # 2年次10月指導開始 # 丁寧な対話

50 お勧めの分掌 ▶ 進路担当 学年団 担任

変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走 クローズアップ！ 就職指導
広島県・広島市立広島工業高校
資質・能力の視点からの自己理解 1・2年次

ブランニングシート # セルフマネジメントシート # 社会と自分をつなげる

52 お勧めの分掌 ▶ 学年団

チーム新課程学年主任
3月のポイント

新課程学年運営の指導デザイン # 2学年への準備 # 次年度への引き継ぎ

どうすればつながる？ 観点別評価と 指導・学習改善

高校の新学習指導要領が実施されてまもなく1年。「社会に開かれた教育課程」、「資質・能力の3つの柱」、「主体的・対話的で深い学び」、「カリキュラム・マネジメント」……。様々な概念や考え方、視点が詰まった新学習指導要領の下での教育活動は、試行錯誤の連続であったかもしれません。その中で最もご苦労されたのは、「学習評価」だったのではないのでしょうか。本誌10月号の発刊時に実施した「次年度誌面に関する読者アンケート」でも、多くの先生が、「学習評価」を関心のあるテーマの上位に挙げられていました。「学習評価」は、教師の指導改善及び生徒の学習改善につながるものにしていくことと、そのあり方が示されていますが、今年度、そうしたものとして「観点別学習状況の評価」などは機能していたでしょうか。残念ながら、「評価のための評価」にとどまってしまったと感じられている先生も少なくないかもしれません。どうすれば指導・学習改善につながる学習評価を実現できるのか——その点にフォーカスした本特集を、ぜひ次年度の学習評価の充実につなげていただければ幸いです。

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

P.4 課題整理

学校現場における観点別評価の現状と課題

P.7 実践事例1 千葉県立千葉北高校

評価基準を教師間でだけでなく、生徒にも共有し、指導と学習の改善を図る

●現代の国語 ●数学I・A ●生物基礎 ●英語コミュニケーションI

P.10 実践事例2 静岡県立静岡東高校

一定期間の変容を見取り、生徒個々の課題をより具体的に把握し、指導改善に生かす

●現代の国語 ●化学基礎 ●数学II

P.13 実践事例3 広島県立^{かななべあさひ}神辺旭高校

観点別評価の結果を検証し、課題をより明確にして、指導改善を図る

●歴史総合 ●生物基礎 ●英語コミュニケーションI ●化学

P.16 座談会 実践校の教師が識者と語る

観点別評価を指導・学習改善につなげる仕組みの核心とは？

京都大学大学院教育学研究科 准教授 石井^{てるまさ}英真 / 千葉県立千葉北高校 学校改善プロジェクトチーム 和泉^{いずみ}雄介
静岡県立静岡東高校 情報管理課主任 神谷^{かみやとしき}隼基 / 広島県立神辺旭^{かななべあさひ}高校 教育情報部主任 西村^{ゆう} 由

P.20 本特集テーマのnext

目標と評価を活用して教育を行うスウェーデンの学習評価の特長と課題

金沢大学 人間社会研究域学校教育系 准教授 本所^{ほんじよ} 恵

学校現場における 観点別評価の現状と課題

新学習指導要領が、「何ができるようになるか」という点において、新しい時代に必要となる資質・能力の育成とともに求めているのが、学習評価の充実だ。具体的には、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉える、観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の実施が求められている。新学習指導要領実施初年度の学習評価の現状と課題を整理する。

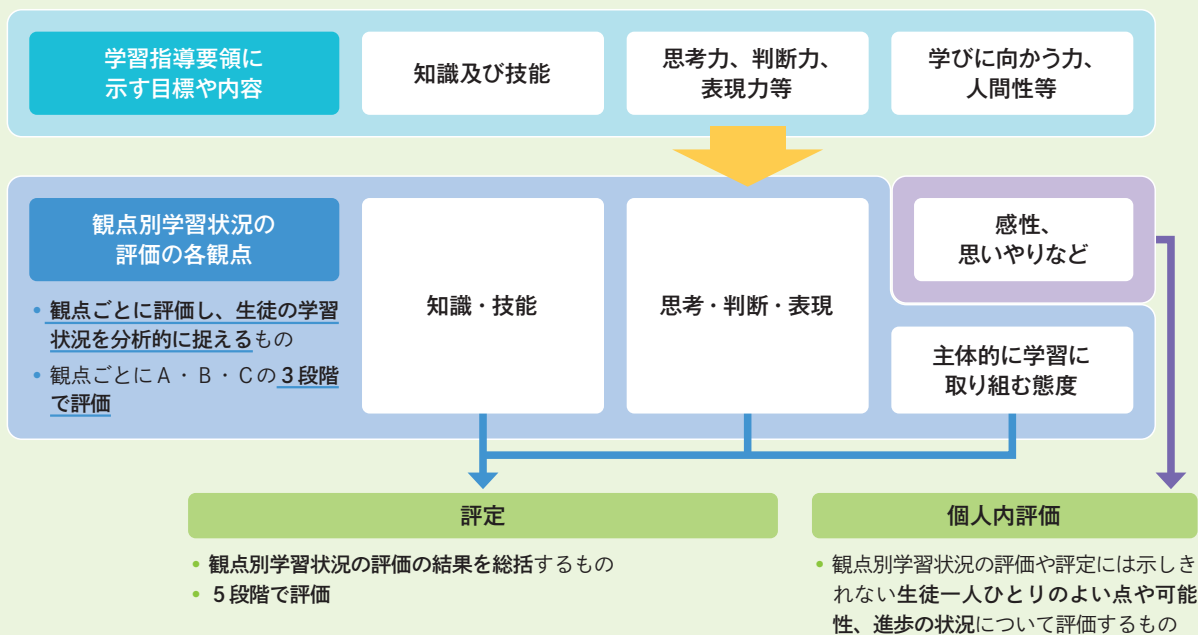
改めて振り返る 学習評価の基本的な考え方

学習評価とは、学校における教育活動に関して、生徒の学習状況を評価することを指す。各教科の評価は、学習状況を分析的に捉える「観点別評価」と、それらを総括的に捉える「評定」の両方について、学習指導要領に定める目標に準拠して実施され、観点別評価や評定には示しきれない生徒のよい点や可能性、進歩の状況については、「個人内評価」として実施するものとされている（図1）。

新学習指導要領では、その目標及び内容が資質・能力の3つの柱で再整理されたことを踏まえ、各教科における観点別評価の観点が、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理された。3観点の中で学校現場が最も課題に感じているのが「主体的に学習に取り組む態度」の評価だ。改訂前の「関心・意欲・態度」と評価の趣旨は同じであるが、単に継続的な行動や積極的な発言等を行うな

図1 学習評価の基本構造

- 各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置づけを評価する、いわゆる相対評価とは異なる



※文部科学省「新学習指導要領下における学習評価及び指導要録の改善について」（2020年）を基に編集部で作成。

図2 学習評価の基本的な考え方

- ✓ 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ✓ 生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ✓ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

生徒はこの点についての理解が十分ではないようだ。次の授業では、その点を重点的に指導しよう！

ここについては、思っていたほど理解ができていなかったから、もっと時間をかけて勉強した方がよさそうだ。



教師



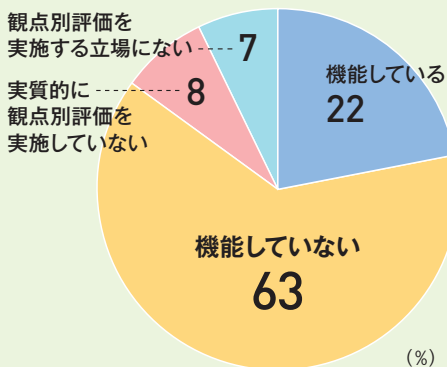
生徒

※文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」（高等学校編）を基に編集部で作成。

しかし、現状は……

図3 観点別評価に関する現場の手応え

Q. 観点別評価は、教師の指導改善や生徒の学習改善につながるものとして機能していますか



※『VIEW next』高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは2022年10月にウェブとファクスで実施。有効回答数は100。

なぜ、観点別評価が指導・学習改善につながるものとならないのか？

ど、性格や行動面の傾向を評価するということではなく、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習を調整しながら学ぼうとする意思的な側面を評価することが重要だ。学習の調整に対する態度が、知識・技能、思考力・判断力・表現力等の育成に結びついていない場合には、生徒が自らの学習を調整することができ

るよう、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められる。学習評価の基本的な考え方として、「生徒にどのような資質・能力が身についたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすること、つまり、教師の指導改善と生徒の学習改善につながるものとすることが示された点にも着目したい。加えて、慣行として行われ

学習評価は指導・学習改善につながっているのか？

新学習指導要領が実施されて1年が経とうとしているが、学校現場では、観点別評価は指導・学習改善につながるものとして機能しているのだろうか。

『VIEW next』高校版の

できたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくことも求められている(図2)。

読者モニターに実施したアンケートでは、観点別評価が教師の指導改善や生徒の学習改善につながる評価として「機能している」と回答した教師はおよそ2割にとどまった(図3)。観点別評価を実施しているものの、指導・学習改善につながるものとして「機能していない」と答えた教師は6割に上っている。

なぜ、観点別評価が指導・学習改善につながるものとならないのか。読者モニターにその理由を聞

実践校の紹介



千葉県立千葉北高校

P.7

設立 1975 (昭和 50) 年 形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1・3学年 320人、2学年 280人

2022年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、鳥取大、秋田県立大、東京都立大、都留文科大に4人が合格。私立大は、学習院大、國學院大、駒澤大、昭和女子大、成城大、専修大、中央大、東洋大、日本大、法政大、武蔵大などに延べ486人が合格。

静岡県立静岡東高校

P.10

設立 1963 (昭和 38) 年 形態 全日制/普通科/共学
生徒数 1学年 280人

2022年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、東京工業大、一橋大、横浜国立大、静岡大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大などに130人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ624人が合格。

広島県立神辺旭高校

P.13

設立 1980 (昭和 55) 年 形態 全日制/普通科・体育科/共学
生徒数 1学年 240人

2022年度入試合格実績(現浪計) 国公立大は、北海道大、島根大、山口大、香川大、愛媛大、尾道市立大、福山市立大などに28人が合格。私立大は、明治大、京都産業大、同志社大、龍谷大、関西大、近畿大、関西学院大などに延べ274人が合格。

いたところ、様々な声が上がった(図4)。「観点別評価は実施しているが、その土台となる評価観の転換が進んでいない」「観点別評価の方法や観点別評価と授業のつなげ方に関する知識が不足している」「各教師に一任されているため、一人ひとりの取り組みが、学校全体の知見として蓄積しない」といった声からは、観点別評価をただ実施するだけでなく、その結果を指導・学習改善に意図的につなげる何らかの仕組みを校内につ

くることの必要性がうかがえる。そうした仕組みを構築して観点別評価を実践してきたのが、本誌4月号、8月号の特集に登場した左記の3校だ。今号では、その3校の、観点別評価を指導・学習改善につなげるための仕組みを具体的にみていくとともに、3校の教師と学習評価に知見のある識者との語り合いを通じて、仕組みを構築する上で留意すべき点と、実践を通じて見えてきた課題について考える。

図4 観点別評価が指導・学習改善につながらない理由(現場の声)

評価観の転換が進んでいない

観点別評価の理解や実施に向けた意欲に、教師間でばらつきがある。評価を、指導改善につなげるものとして捉えられていない人が多い

「改善のための」評価という意識が薄く、実践は観点別評価を行うことにとどまっている

評価の目的やあり方について、校内で十分な理解がされていない。観点別評価を行う以前に、多様な資質・能力の育成が意図された授業が行われていない

観点別評価について理解を深める機会や場を持っていない

研修なども行われないうまま観点別評価の実践が各教師に一任され、個々の教師が悩んでいる状態

観点別に指導を考え、授業を組み立てるための研修や教材研究の時間が不足し、観点別評価の意味を深く考えられていない

観点別評価を指導の自己点検につなげる機会や場を持つことができていない

観点別評価を実施することで、高い評価がつきやすくなった教科・科目があれば、そうではない教科・科目もある。その状況に皆モヤモヤしているが、それがよいことなのかどうかを議論する機会を持っていない

そのほかの声

今までの評定と大きなずれがない評定を求めている、指導・学習の改善につなげていない。評定を決めた後に、それと齟齬のない観点別評価の結果をつけている教師もいる

「主体的に学習に取り組む態度」をどのように測るか、まだ試行錯誤している状態

※『VIEW next』高校版読者モニターへのアンケート結果より。アンケートは2022年10月にウェブとファクスで実施。有効回答数は100。

次ページから、実践校3校の、
観点別評価を指導・学習改善につなげるための仕組みを見ていく

千葉県立千葉北高校

評価基準を教師間でだけでなく、生徒にも共有し、指導と学習の改善を図る

千葉県立千葉北高校は、「柔構造」の組織体制を基盤に、各教科・科目がシラバスを作成して観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）を実践している。実践の振り返りも学校全体で行うことで、教科を超えて指導の改善に取り組むとともに、具体的な評価基準を教師と生徒が共有することで、生徒の学習意欲が高まっている。

同校の新教育課程とその編成に向けた取り組み

本誌4月号・特集P.8～11をご覧ください。



同校の授業改善の取り組み

本誌8月号・特集P.7～12をご覧ください。「現代の国語」「生物基礎」のシラバスをダウンロードできます。



学習評価の全体の方針

- 学習の到達目標や年間学習計画、3観点別のルーブリックと評価方法を明記したシラバス（*1）を、各教科で科目ごとに作成し、教師間でだけでなく、生徒にも共有。
- ルーブリックの評価尺度は、A・B・Cの3段階に設定。3観点に対応する「7つの北高力」（*2）をひもづけ、学習の到達目標と「7つの北高力」がつながるようにする。
- 年度中も評価の方法やルーブリックを見直し、適宜改善。

観点別評価を評定に総括する方針

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点は、1：1：1の比率とする。
- 単元ごとに3観点における達成状況をA・B・Cで評価。
- 学期末には、各単元の観点別評価の結果を観点ごとに縦に並べ、A=3、B=2、C=1として数値化した上で、それぞれ平均値を算出し、それらをその学期の観点別評価の結果とする。同様に、学年末には、各学期の観点別評価の結果を縦に並べて平均値を算出し、それらを1年間の観点別評価の結果とする。
- 評定は、学年末のA・B・Cの組み合わせによって、以下の例のように算出。
5：AAA、4：AAB、3：ABB、AAC、BBB、ABC、BBC、2：BCC、1：CCC

● 指導・学習改善につなげる仕組み 観点別のルーブリックを活用し、 知識偏重の授業から脱却

千葉県立千葉北高校は、教科・科目ごとに作成したシラバスに、学習評価の方法や材料、観点別のルーブリックを明記し、それに基づいて学習評価を行っている。育成を目指す「7つの北高力」は、それぞれ3観点到ひもづけている

ため、「7つの北高力」を踏まえた授業づくりと学習評価、そして評価結果を踏まえた指導改善を実践することができている。学校改善



山口雄大
1学年担任、生徒会指導部
教職歴9年。同校に赴任して1年目。国語科。
やまぐち・たけひろ



鈴木淳和
教務主任
教職歴8年。同校に赴任して4年目。数学科。
すずき・としかず



常盤亜紀子
2学年担任、生徒会指導部
教職歴22年。同校に赴任して5年目。理科（生物）。
ときわ・あきこ



和泉雄介
進路指導主事、
学校改善プロジェクトチーム
教職歴14年。同校に赴任して9年目。外国語科（英語）。
いずみ・ゆうすけ



森谷一雅
1学年主任、教務部
教職歴15年。同校に赴任して10年目。理科（生物）。
もりや・かずまさ



校長
勝田幸裕
教職歴38年。同校に赴任して2年目。
かつた・ゆきひろ

*1 「現代の国語」「生物基礎」のシラバスは、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』（<https://view-next.benesse.jp/>）からダウンロードできます。上記2次元コードから、または「TOP→学校教育情報誌『VIEW next』→高校版バックナンバー」をご覧ください。

*2 「徹底力」「課題発見力」「思考力」「実践力」「創造力」「協働力」「自己改善力」の7つ。

数学科

数学 I・A

観点別の出題によって、応用問題を諦めない姿勢に

1学年の数学科では、定期考査や小テストを、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点別に作問し、それぞれの観点の評価材料としている。「主体的に学習に取り組む態度」については、授業中のノート、ワークシート、課題プリントの記入内容と提出率を基に評価する。

定期考査や小テストの点数を観点別に出すことで、生徒の学習の取り組み方が変化した。これまでの定期考査は、平均点 60 点を目安に、主として教科書レベルの知識・理解を評価する問題から構成され、概ね 8 割以上の点数が取れば、評定を「5」としていた。それが、観点別に問題が出されて評価がつくことで、「思考・判断・表現」の観点で評価される応用問題で点数が取れなければ、「思考・判断・表現」の評価が「B」や「C」となり、評定は「5」にはならなくなった。

「難しい問題が解けなければ高い評価は得られないと生徒は気づき、以前は最初から諦めていた問題に取り組むようになりました。その変更によって、定期考査の問題構成が大学入学共通テストに近づいたことも、生徒の意欲を高めることにつながりました」(鈴木先生)

国語科

現代の国語

2学期は評価の機会を増やし、学習意欲の向上につなげる

1学年の国語科では、教科内で1学期の学習評価の状況を振り返った際、評価材料が少なく、生徒の資質・能力を適切に評価できていないのではないかとという声が上がった。そこで2学期は、1枚のワークシートでも大問ごとに評価するなど、評価の機会を増やすことにした。そして評価の3観点を明示し、何をどう努力すればよいのか、生徒がつかみやすくなるようにした。

「記述式問題を苦手としていた生徒が、『書く力を鍛えるためにはどうしたらよいか』と相談に来ました。自分が身につけなければならない力を、自分で考えられるようになってきています」(山口先生)

その際に、短い文をつないで書く方法や、書き出した文章を組み替えながら完成させる方法など、様々な方法を指導したところ、自分に合う方法を模索し、書く力を磨こうとする生徒の姿が見られたという。

「生徒の学習意欲をさらに高めるために、単元の開始時に評価がAとなる基準を示し、そこに到達するためにはどんな取り組みが必要なのかを具体的に説明して、生徒の目標設定を支援していきます」(山口先生)

プロジェクトチームの和泉雄介先生は、こう語る。

「3観点で評価する仕組みを整えたことで、資質・能力の3つの柱を育成する意識が各教師の中心で高まっています。『知識・技能』の習得を重視しがちだったこれまでの授業を、他の資質・能力の育成も踏まえた内容・構成の授業へと見直し、今まで以上に、1年間を見通した指導計画を考えるようになりました。そのこと自体が指導改善につながっています」

観点別評価によって、生徒は努力の道筋を立てやすくなったと、国語科担当で1学年担任の山口雄大先生は語る。

「中間考査の知識・技能の点数を5点上げたい』『小テストであとどれだけ得点すれば、知識・技能はAになるのか』などと、目標を具体的に挙げて相談に来る生徒が増えています。生徒と一緒に解答用紙とルーブリックを見ながら、学習改善方法を考えています」

同校では、学習評価のあり方を年度途中でも見直し、改善する方針とした。実践するからこそ見え

科目ごとに、観点別のA・B・C、評定、ABCの組み合わせのそれぞれの割合と、評価材料及び評価方法、担当教師の振り返りコメントを一覧表にし、全科目分を全教師で共有。各教科・科目の実践と課題を、担当教科の指導改善に生かせるようにした。

図 学習評価の状況の共有表(例)

評定平均3・4	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	A	B	20.1	78.3	51.3	48.1
	25.7	73.0		1.6		0.6
	1.3					
	評定	組み合わせ				
5	9.7	AAA(9点)				9.7
4	18.7	AAB(8点)				18.7
		ABB,AAC(7点)				29.9
3	70.1	BBB,ABC(6点)				38.3
		BBC,ACC(5点)				1.9

数値は%で、編集部による仮値。 ※学校資料を改変して掲載。

る課題や改善策があるからだ。教務部が主導し、1学年の1学期の評価について、科目ごとに各観点のA・B・Cの割合とABCの組み合わせの割合、評定平均、そして評価方法を一覧表にし(図)、全教科で共有した。教務主任の鈴木淳和先生は、その意義をこう語る。

「主体的に学習に取り組む態度」のAの割合が最も高かった情報科では、提出物の評価で、シラバスに示した評価基準をさらに具

英語科

英語コミュニケーションⅠ

1学期の結果を踏まえて、2学期のテストの評価規準を変更

「英語コミュニケーションⅠ」では、1学期のパフォーマンステストの評価が想定以上に高かった。そこで、教科内で話し合い、2学期は、1学期のテストで多くの生徒が不十分だったアイコンタクトやジェスチャーの指導に重点を置くことにし、評価の規準を「Voice」から「Delivery」に変えた。

「新たな評価規準を生徒に説明したところ、プレゼンテーションの練習に意欲的に取り組み、結果、パフォーマンスの質が全体的に高まりました」（和泉先生）

単元の開始時には、生徒はその単元での自分の目標を立てて、「学びの記録」に記入する。目標は、3観点の評価規準を基にする生徒もいれば、単元の最初に教師が示す指導の重点を踏まえて決める生徒もいる。生徒が振り返りを記入したら、教師はそれを回収し、確認の印をつけて返却する。単元の中盤には、目標の到達状況を自己評価し、後半の目標を改めて立てる。

『学びの記録』の記入内容を見ると、目標を意識して学習する生徒が増えています。それが、パフォーマンステストの結果にも表れていると思います」（和泉先生）

理科

生物基礎

クラスの平均点の違いから、自身の指導を見直す

「生物基礎」では、定期考査、実験レポート、プリント、授業中の発言、自己評価・相互評価を評価材料とすることを、科目内で統一した。

『生物基礎』の担当教師3人が共通認識を持つために、指導についてよく話し合うようになりました。それ自体が、指導改善の機会になっています」（常盤先生）

定期考査は、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点別に作問し、生徒にも評価の観点を設問ごとに示した。観点別に点数を算出し、考査全体の平均点ではなく、「知識・技能」と「思考・判断・表現」のそれぞれの平均点を見て、生徒の学習の改善点を分析できている。また、定期考査を科目内で統一したことで、各クラスの平均点を基に、よりよい指導を模索するようになった。

「平均点が高いクラスの担当教師の指導内容を聞いて、自身の指導を見直すようになりました。例えば、担当クラスの平均点が高かった常盤先生に授業の工夫を聞いたところ、免疫の仕組みの学習時に、劇仕立ての教材を活用していました。そのように、自分にはない発想やノウハウを学ぶことができています」（森谷先生）

体的に生徒に伝え、主体的に学習に取り組む態度の向上に努めていたことが分かり、他教科の参考になりました。そうした教科を超えた評価についての議論は、学校全体の指導改善につながりました」

1学期の学習評価の共有を受けて、「生物基礎」では、2学期の「主体的に学習に取り組む態度」のAの基準を下方修正した。「主体的に学習に取り組む態度」のBが多く、評定の5が最も少なかったからだ。1学年主任の森谷一雅先生は、次のように説明する。

「Bが多いのは、基準の幅が広いということ。生徒の実態を踏まえて基準を見直し、生徒が適切な目標を持てるようにしました」

「生物基礎」担当で2学年担任の常盤亜紀子先生は、「主体的に学習に取り組む態度」の育成方法を今後改善していきたいと話す。

「他教科の指導内容から、具体的な目標を事前に示せば、生徒はその目標に向けて何をすべきか考えるため、主体的に学習に取り組むようになるのだと思います。担当の『生物基礎』でも、観察で

気をつけるべき点や実験に取り組む姿勢など、目標を具体的に示そうと考えています」

●展望

生徒が学習改善に活用できる評価結果の伝え方を模索

同校は2022年度より順次、生徒1人1台端末の環境整備を進めており、指導と学習評価でICTをいかに活用するかも今後検討していく。併せて、教師から生徒への評価の結果の伝え方も見直したいと、勝田幸裕校長は語る。

「評価の結果は一人ひとり異なるものであり、数値ではなく、言葉で伝えることが大事だと、國學院大学の田村学教授がおっしゃっていました。確かにその通りで、到達したことや課題を生徒が理解し、それを踏まえて学習が改善するところで初めて、学習評価は機能したと言えます。そのためには、学習の主体である生徒が、もっと評価にかかわってよいはず。生徒自身がその必要性を一層感じられる評価の実現を目指していきます」

静岡県立静岡東高校

一定期間の変容を見取り、生徒個々の課題をより具体的に把握し、指導改善に生かす

静岡県立静岡東高校では、生徒の変容を見取って指導改善や学習改善を行うために、2学期は1・2学期の評価材料で、3学期は1～3学期の評価材料で、学習評価をすることにした。観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）の3観点で一定期間の変容を見取ることで、生徒個々の課題を具体的に把握できるようになった。

同校の新教育課程とその編成に向けた取り組み

本誌4月号・特集 P.12～15 をご覧ください。



同校の授業改善の取り組み

本誌8月号・特集 P.13～18 をご覧ください。



学習評価の全体の方針

- 科目ごとにシラバスを作成し、各単元の学習目標や授業展開、育成を目指す7つの資質・能力（*1）の中で評価するものを、教科内で共有。
- 各教科で、単元ごとに観点別評価を総括する方法を統一。教務課は以下の3つの方法を例示した。
 - ①評価材料を観点別に数値化し、その平均点を算出して各観点のA・B・Cをつける。
 - ②評価材料を観点別に数値化し、その合計点に応じて各観点のA・B・Cをつける。
 - ③評価材料を観点別にA・B・Cで評価した上で、A・B・Cの数を観点別に集計した結果を基に、最終的なA・B・Cをつける。
- 生徒の変容を評価できるようにするため、1学期は1学期の、2学期は1・2学期の、3学期は1～3学期の期間の評価材料を用いて評価する。

観点別評価を評定に総括する方針

- 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点は、1：1：1の比率とする。
- 3観点のA・B・Cの組み合わせによって5段階の評定に総括する。AAA、AAB=5、BBB=3、CCC=1といった換算表を作成。

●指導・学習改善につなげる仕組み

変容を継続的に見取ることで生徒への声かけがより具体的に

静岡県立静岡東高校は、各教科で科目ごとのシラバスを作成し、各単元の学習目標や授業展開、育成を目指す7つの資質・能力の中で評価するものを共有し、指導の足並みをそろえ、評価の結果を指導改善に生かしている。

3観点をどのように評価するかは各教科の裁量に任せられているが、1学年の共通事項として、1学期は1学期の、2学期は1・2学期の、3学期は1～3学期の期間の評価材料を用いて評価することにした。「前の学びからどのように成長しているか、より深い学びに向かっているかどうかを捉え」（*2）、評価の結果を指導・学習改善につなげるという新学習指導



情報管理課主任
神谷 隼基
かみや・としま
教職歴7年。同校に赴任して3年目。数学科。



教務課
戸田 圭亮
とだ・けいすけ
教職歴9年。同校に赴任して1年目。国語科。



教務主任
中上 明仁
なかうえ・あきひと
教職歴22年。同校に赴任して5年目。理科（化学）。



校長
鈴木 伸彦
すずき・のぶひこ
教職歴38年。同校に赴任して2年目。

*1 「課題設定解決力」「論理的思考力」「自己実現力」「自己管理能力」「発信力」「自己肯定力」「社会参画力」の7つ。

*2 文部科学省教育課程企画特別部会論点整理「学習評価の在り方について 3. 学習評価の在り方について」。

国語科

現代の国語

■ 定期考査の解答用紙（抜粋）

問四	問二	問一	
エ	イ	d	a
問五	問三	繁栄	依存
人	Y		
問	イ	e	b
の	Z	双方	及ぼす
活	ア		
動			
み			
問六			c
イ			はため

	思判表	知技
一	/8	/8
二	/11	/8
三	/18	/5
合計	/29	/21

「知識・技能」と「思考・判断・表現」の観点別に作問し、問題用紙や解答用紙にも、小問ごとに評価観点を明記。ひと目でどの観点か分かるように、「知識・技能」の観点で評価される小問にはグレーの網かけをした。

大問ごとに、「知識・技能」「思考・判断・表現」の得点を算出して記入。また、合計点が同じでも、「知識・技能」が50点の場合と、「知識・技能」が25点、「思考・判断・表現」が25点で計50点の場合とでは、観点別評価の結果が異なり、評定も異なる可能性があるため、生徒に説明している。

■ 定期考査とワークシートを同等に評価。学習姿勢の改善につながる

「現代の国語」では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を均等に育成することを意識して指導計画を立てた。評価材料は、ワークシートや定期考査、「話すこと」のパフォーマンス課題とそれに作成する原稿などとし、いずれも観点別に評価した。

定期考査は、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点別に作問した（左図）。ワークシートは、単元の内容に応じて、「知識・技能」「主体的に学習に取り組む態度」、または「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」と、評価の観点を変えた。

定期考査とワークシートの評価比率は、同等とした。これまでのように、定期考査の評価比率を高くすると、「読むこと」の評価材料が多くなるので、3領域でバランスを取るためだ。

「生徒には、定期考査で高い点数が取れても、ワークシートの評価がよくなければ、最終的な評価は高くつかないことを説明すると、ワークシートにもきちんと取り組むようになり、学習姿勢の改善につながっています」（戸田先生）

ワークシートは、設問を細かくし、スモールステップで読解を進めるものにした。単元の最初と最後に同じ問い（下図）を設け、それを並べて見ることで、自身の変容の度合いや内容が視覚的に分かるようにした。すると、「論理的に文章を組み立てられるようになった」「自分の考えを的確に表現できるようになってきた」などと、自己の成長を認識することができている振り返りが、ワークシートに書かれるようになった。生徒のワークシートの振り返りは、指導改善の材料にもしている。

■ ワークシート（抜粋）

『時間と自由の関係について』 内山節

思判表: _____ 主体: _____

★教科書 98 ページにある「経過する時間」とはどのようなものか、自分の経験にあてはめて説明しましょう。

（第二段落）
①本文中の二つの時間について

まとめ
★教科書 98 ページにある「経過する時間」とはどのようなものか、自分の経験にあてはめて説明しましょう。

ワークシートを「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の観点で評価する場合、シートにもそれらを明記。

ワークシートの最初と最後に同じ問いに設定。授業を通じて自身の「思考・判断・表現」にはどのような変容があったのか学習を振り返り、次の学習につなげられるようにした。

※学校資料を基に編集部で作成。

要領の趣旨を踏まえたとき、教務主任の中上明仁先生は説明する。「3年次は大学に提出する調査書を作成するため、2学期の評価は1・2学期分の評価材料を用いてつけますが、それと同じ考え方は、先行事例がなく、導入にためらいはありましたが、評価材料の調査の対象期間を長くすれば、生徒の変容が把握しやすくなるかと考え、実施に踏み切りました」

教務課の戸田圭亮先生は、そうした仕組みにより、生徒への声かけがより具体的になったと語る。「1・2学期の評価材料を通して見ると、文章がうまく書けるようになってきている、誤字・脱字が多くなるなどの気づきがあり、そうした点を指摘した上で生徒に助言しています」

「現代の国語」では、ワークシートと定期考査の評価比率を同等とした。1学期の評価で、ワークシートの評価が低かった生徒から、「定期考査の得点が高いのに、評価が低いのはなぜか」と質問があったが、教師が評価の目的や実施方法を説明すると、その生徒は納得し、

数学科

数学Ⅱ

定期考査の結果に対する助言を類型化してフィードバック

旧課程生である2学年の数学科の定期考査は、「知識・理解」「数学的な技能」「数学的な見方・考え方」の観点別に作問。結果は、科目担当者間で分析し、例えば、「知識・理解」の点数がよくなければ、授業でのその観点の扱いを厚くするなど、指導改善に生かしている。また、観点別の点数に応じた助言を、生徒一人ひとりに行っている。

「助言の内容は、観点別の点数に応じて類型化しました。それにより、生徒個別の課題に対して適切な助言を、効率よく行っています。生徒からは、『このまま頑張ればよいと分かり安心した』『学習の改善方法が示されて役に立った』といった声が聞かれています」（神谷先生）

「数学的な見方・考え方」や「関心・意欲・態度」の評価材料としては、レポート課題を試みている。課題では、文理共通で、大学入学共通テストの類題や日常生活との関連を意識した問題を出している。必答問題とチャレンジ問題に分けて構成することで、数学が苦手な生徒も取り組めるようにした。今後は、レポートを生徒に返却し、教師のフィードバックに基づいて修正し、再度提出させることで、自己調整力を見取る材料にする予定だ。

理科

化学基礎

実験の事前課題で、目標と指導と評価を一体化

理科では、授業を通じて育みたい生徒像を設定し、それを基に、各科目の授業と評価の計画を作成。定期考査も全クラス共通問題とした。「化学基礎」では、共通の実験を各学期に1回行い、評価は、定期考査7割、実験レポート2割、週末課題1割と、評価比率を統一。実験では事前課題とレポートに取り組みせ、定期考査では実験に関する会話文形式の問題を出した。いずれも3観点で評価し、その結果を授業展開や発問等の改善に生かしている。

「事前課題は、実験に関する調べ学習です。以前は教師が説明していましたが、授業のねらいの1つである『主体的に実験を行う』ためには、生徒の主体性を引き出す機会が必要と考え、事前課題を出し、『主体的に学習に取り組む態度』の評価材料にしました。目標・指導・評価の一体化を図る授業改善ができたと思います」（中上先生）

小単元の終了後には、週末課題を「Classi」(*3)で配信し、自動採点で到達度を測れるようにした。各学期に約20回実施し、生徒は学習改善に生かしている。加えて、小単元の内容を80字でまとめる課題も出し、いずれも「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料としている。

2学期からはワークシートにも意欲的に取り組むようになった。

また、「主体的に学習に取り組む態度」は、単独で評価せず、パフォーマンス課題やワークシートなどで「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれかと連動させる形で評価している。「主体的に学習に取り組む態度」に含まれる、学習における自己調整力などを見取るため、そうした工夫は教科を超えて共有し、学校全体として評価の改善を図っている。

観点別評価の導入によって課題をより具体的に把握することができるといなり、それが指導改善や生徒への助言において役立っているといった教師の声も上がっている。数学科では、分野ごとに、知識不足なのか、思考力不足なのか、課題をより明確にし、それを踏まえて、その後の授業の力点を変えている。生徒への助言もより個別化できていると、情報管理課主任の神谷隼基先生は語る。

「評価を分野ごとに見ると、どの分野も知識が不十分な生徒、分野によって到達度にむらがある生

徒など、個別の課題が具体的にわかります。それを踏まえて、生徒にかける言葉や提示する問題を考えています」

●展望

効率的・効果的な評価方法を、全校で模索

今後は、各単元の指導計画に、観点別のルーブリックを記載する予定だ。そして、効率的・効果的な評価のあり方を模索し続けていきたいと、鈴木伸彦校長は語る。

「中学3年生向けの学校説明会で、生徒本位の評価を教科内で足並みをそろえて実践していると説明すると、参加者は安心し、学校への信頼につながっています。一方で、評価材料が多くなると、教師と生徒の双方に負担がかかります。また、1人の教師が1学年全員を評価する科目もあります。数値化して測定できるものを見定めて効率よく評価したり、評価材料を精選したりと、生徒にとっても教師にとってもよりよい評価のあり方を、不断に模索していきます」

*3 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。

観点別評価の結果を検証し、 課題をより明確にして、指導改善を図る

研究授業などを通じて全教科で試行錯誤しながら、観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）を実践している広島県立神辺旭高校。観点別評価によって、課題をより具体的に把握し、指導計画や問題作成の方針などの指導改善を進めている。

同校の新教育課程と その編成に向けた取り組み

本誌4月号・特集 P.16～19 を
ご覧ください。



同校の授業改善の取り組み

本誌8月号・特集 P.19～24 を
ご覧ください。マスタールー
ブリックも掲載しています。



学習評価の全体の方針

- 育成を目指す5つの資質・能力（*1）のマスタールーブリック（本誌8月号 P.19 に掲載）を基に、各教科が単元ごとのルーブリックを作成。5つの資質・能力と観点別評価の3観点をひもづけ、3観点をどのように評価するか、評価計画を盛り込んだ単元計画を各教科で立案し、目標・指導・評価の一体化を図る。
- 評価材料は、単元ごとの目標の到達度の検証に用いる。1学期の結果を踏まえて2学期の単元計画を変更したり、生徒への助言に活用したりする。
- パフォーマンス課題を積極的に実施し、評価材料とする。

観点別評価を評定に総括する方針

- 観点別評価を評定に総括する際には、定期考査や小テストなど、その観点の点数及びルーブリックによる評価の点数を合算する。なお、ルーブリックによる評価では、「A A」「A」「B」「C」「C C」の5段階とし、さらに点数化する。そして、100点満点に換算した数値に対して、A・B・Cをつける。
- 最終的な5段階評価は、「知識・技能」「思考・表現・判断」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点を100点満点換算したものを、2：2：1（全教科共通）の比率で合計し、その数値を基に5段階で評定をつける。

●指導・学習改善につなげる仕組み 単元計画に3観点を明記し、 観点別に課題を把握

広島県立神辺旭高校は、育成を目指す5つの資質・能力を設定し、その目標の達成に向けて指導改善を図っている。改善のツールとしているのが、各資質・能力を発揮した時の生徒の姿を4段階で記述したマスタールーブリックだ。そ

のマスタールーブリックと照らし合わせながら、単元のねらいとそれを達成するための指導計画、観点別の目標を盛り込んだ単元計画を、教科・科目ごとに作成する。そして、それを基に授業を行い、授業後、目標の到達度を観点別に検証して課題を把握し、指導計画を見直したり、生徒の助言に生かしたりしている。カリマネプロジェクト会議推進リーダーの上村



上村 純
うえむら・じゆん
教職歴8年。同校に赴任して4年目。英語科。



西村 由
にしむら・ゆう
教育情報部主任
教職歴21年。同校に赴任して5年目。理科。



梅村 嘉雄
うめむら・よしお
教務主任
教職歴35年。同校に赴任して3年目。理科。



小野塚 慎一郎
おのづか・しんいちろう
主幹教諭
教職歴21年。同校に赴任して1年目。地理歴史・公民科。

*1 「知識・技能」「協働的課題解決力」「思考力・判断力」「表現力」「主体性」の5つ。

定期考査の振り返りを、生徒が自身の学習を見直す機会に

1学年の「生物基礎」では、生徒の提出物を「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料としている。以前は、問題集の中の定期考査の出題範囲に該当する問題を宿題として課し、提出状況を評価していたが、現在は、授業プリントの書き込みや授業・単元ごとの振り返り、定期考査の振り返りと次の目標、その達成状況を記入したポートフォリオなどを評価材料としている。授業の振り返りでは、授業内容をきちんと理解しているか、定期考査の振り返りでは、振り返りが学習改善につながっているかに着目し、その記述を評価。振り返りをしても点数が伸びなかった場合や、学習に生かせるような振り返りができていない場合には、学習方法や学習計画についての助言をポートフォリオに記入することもある。

「振り返りと学習改善が定期考査の結果につながったといった成功体験が得られれば、さらに学習方法を工夫してみようとするなど、学習意欲の向上につながるのではないかと期待しています。目標は、進路選択にも生きるような主体性を育むことです。そうした評価のあり方を、教科の枠を超えて追究していきます」(梅村先生)

パフォーマンス課題の作成を通じて、指導力が向上

体育科1学年の「歴史総合」では、単元末に「思考・判断・表現」を測るパフォーマンス課題を出し、生徒個々の達成度を、教師がルーブリックを用いて評価している。時代背景や地域が異なる複合的なテーマについて、歴史用語を用いて説明する課題で、生徒は授業中に取り組み、提出する。学習内容を統合して考える課題を難解と感じたのか、最初、生徒はあまり熱心に取り組んでいなかった。そこで教師は、ルーブリックで1つ上の基準の評価を獲得できる方法などを示し、提出した課題の取り組み状況に対しても適宜フィードバックするようにした。すると、2学期に入って、課題の意図を把握できているとかがえる解答が増えた。

「単元末に行う学習評価では、『思考・判断・表現』の評価が『A』となる生徒が増えています。そうした生徒の成長をしっかりと見取り、思考力や判断力を発揮して取り組む課題を設定できるよう、学習評価を活用した指導改善に燃えています。生徒の状況を見計らって課題を出すなど、生徒の次の学習につながる単元計画を、より丁寧に考えるようになりました」(小野塚先生)

純生先生は、次のように語る。「評価結果を観点別に見通したところ、他の観点に比べて、『思考・判断・表現』が芳しくない生徒が多いことに気づき、英語科として重視する表現力を向上させようと、授業を見直しました。観点別

に見取る重要性を実感しました」また、各教科とも、パフォーマンス課題を積極的に実施し、「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料としている。パフォーマンス課題の実施は、生徒の学習意欲の向上に

図 指導共有授業シート(3学年・化学)

単元名	学習のまとめ、化学と人間生活			
本校の育てたい生徒像 (教科科目全体でどの部分を強く育てたいか)	(1) 目の前の課題を自分ごととして理解し、 ^① 蓄えた知識や技能を活かしながら、 ^② 筋立ててものごとを考え、 ^③ 他者と対話を繰り返すことで、よりよい解決策を導き出すことができる生徒。 (2) 多くの人とともに生きる自分であることを理解し、他者のことを考え、責任感を持って行動することのできる生徒。			
本時でのつきたい力	協働的に課題を解決する力、(アフター課題で、主体的に学習を進めていく力)			
単元内の3観点 (本時ではどの観点に力を入れているか☆を記入)	《知識・技能》() ・与えられた資料を知識とつなぎ合わせて理解できる 《思考・判断・表現》(☆) ・資料を基に、論理的に思考・表現できる ・議論しながら、協働的に思考活動できる 《主体的に学習に取り組む態度》() ・興味関心や自己実現に向けて、主体的に学習できる			
本時の評価基準	アンケートで、 ・エキスパート課題を理解し、ジグソー活動で理解を深めることができたか ・グループで、論理的に答えを導くために思考したり、議論できたか 事後の課題提出で、 ・興味関心や自己実現に向けて、主体的に課題を選択し、取り組みたかを評価する。			
見どころ 工夫点	知識や理解度、教科・科目毎のモチベーションに差が出ている集団に対して、知識構成型ジグソー法で、協働的に活動させ、3観点とも評価可能な授業設計の提案をしたい。			
指導過程	時間	学習活動	指導	指導上の留意点(3観点評価)
	5	導入	各自の課題に責任をもって取り組ませる。	基本は生徒の活動を見守りながら、ファシリテートする
	★35	展開 エキスパート活動 ジグソー活動 課題	組んで、資料を把握し、各問に答える。グループで内容を確認させる。 各資料を他のメンバーに解説させる。 得られた知識をもとに、グループの課題の答えを議論させる。ロイノートで提出させる。	理解度の低いグループへ支援する。(※)協働的な思考活動がうまくいかないグループへ支援する。(※)
10	まとめ	全体共有 まとめ	他グループの考えを知り、様々な思考のプロセスがあることを確認させる。 アンケートへの回答と併せてアフター課題に取り組むことを指示する。	

※学校資料をそのまま掲載。

「本校の育てたい生徒像」を常に意識できるよう明記

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点のうち、力を入れて指導する観点に☆をつける

評価材料と評価基準を、簡条書きで明記

3観点それぞれの指導上の留意点を明記

「指導共有授業シート」は、公開研究授業で配布するもので、教師間で指導計画を共有する資料の1つだ。2021年度の書式から、3観点でどのように指導し、評価するのかを明記する形に改善した。

理科

化学

生徒が取り組みたくなる課題のテーマと出し方を工夫

3学年の「化学」では、新学習指導要領の趣旨を踏まえて、「主体的に学習に取り組む態度」を評価し、生徒の学習改善を図っている。その方法は、授業で取り組んだパフォーマンス課題等に関連する複数の「アフター課題」を、家庭学習の課題として提示するというもの。例えば、潜水病について知識構成型ジグソー法^{*2}で学んだ授業では、「エキスパート課題をよく理解できなかったから、気体の溶解度を復習する」「看護・医療系を目指しているから、潜水病への対処法を調べてまとめる」など、生徒は、自身の理解度や興味・関心、希望進路に合わせて課題を選んで取り組み、提出した。

「問題演習を一律に宿題とすると、解答を写して提出する生徒が多くいました。そこで、自分が学びたいこと、学習すべきことを考えて選んで課題に取り組み、それが評価される機会があれば、意欲的に自学できるのではないかと考え、『アフター課題』を取り入れました。すると、提出率も記述内容も期待以上で、『主体的に学習に取り組む態度』を育成し、学習改善につながる取り組みとして、手応えを感じています」(西村先生)

英語科

英語コミュニケーションI

生徒の変容を可視化するための仕組みを模索

英語科では、定期考査などで、設問ごとに3観点を示し、生徒に3観点を意識させるとともに、その解答状況を学習評価の材料としている。22年度の1学年では、1学期末に各観点の評価結果を確認したところ、「思考・判断・表現」は他の観点よりもAがつく生徒が少なかった。知識の暗記は得意だが、アウトプットが苦手な生徒が多いことが浮き彫りになった。そこで、2学期の指導計画を見直し、「英語コミュニケーションI」で「思考・判断・表現」につながる、書く活動を強化した。

単元の最初と最後に、同一のループリックによる生徒の自己評価を実施。その結果から生徒が苦手とする箇所を把握し、指導改善の材料としている。また、生徒が単元を通してできたことと課題を把握できるよう、振り返りの自由記述欄を設けたところ、多くの生徒が、今後の学習で気をつけるべき点を書いた。ただ、「文法の大事さを痛感した」といった記述にとどまる生徒も一定数いた。

「成長しているか、より深い学びになっているかを記述から読み取ることは難しく、生徒に自身の変容をどう言語化させるか、試行錯誤を続けていきます」(上村先生)

●展望

教科や学年を超え、学習評価の知見を語り合う

全校を挙げて観点別評価に取り組む同校は、2022年12月、「新学習指導要領における評価の場面の工夫」をテーマとした公開研究授業を行い、各教科の実践を共有した(図)。当日は、3学年「国語基礎演習」「化学」、2学年「スポーツII」、1学年「数学A」「英語コミュニケーションI」の授業を公開。事後研究では、評価方法

けでなく、課題の作成を通じた教師の指導力の向上にもつながっている。化学担当の教育情報部主任の西村由先生は、次のように語る。

「『アフター課題』に意欲的に取り組む生徒を見て、生徒に課題を選ぶ理由を考えさせることで、学習意欲が高まるという仕かけに手応えを感じています。生徒の関心やニーズも把握できるので、新しい課題を考えたり、問いの難易度を検討したりする際の情報源にもなり、指導改善に役立っています」

の工夫を共有しながら、評価の結果をどう指導改善・学習改善に生かすのかを議論した。教務主任の梅村嘉雄先生は、次のように語る。

「新学習指導要領で求められている評価観が浸透しきっていないため、教師の関心は評価方法に向きがちです。現在はそのノウハウを蓄積する段階ですが、目標と評価結果を照らし合わせて指導を検証し、改善する『指導と評価の一体化』の趣旨を外してはいけません。公開研究授業は、その趣旨を確認しながら、学年や教科を超えて実践を共有する場とし、普段から情報交換ができるようになることを目指して行いました」

主幹教諭の小野塚慎一郎先生は、教科学習で培った思考力や判断力等を、ほかの教育活動でも活用できる汎用的な資質・能力に高めたいと語る。

「マスターループリックを活用して、各教科が様々な面から生徒を刺激するとともに、目標に準拠した授業ができていくかを評価することが、汎用的な資質・能力の育成につながると考えています」

*2 ジグソーパズルを解くように、協力して全体像を浮かび上がらせる協調学習法の1つ。ある課題について、複数の視点で書かれた資料を読む「エキスパート活動」、そこで得た知識を交換し、考えを深めていく「ジグソー活動」、全体でグループの意見を交換する「クロストーク活動」の3つの活動から成る。

実践校の教師が識者と語る

観点別評価を指導・学習改善につなげる仕組みの核心とは？

観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）を指導・学習改善につなげるための仕組みを構築し、観点別評価を実践してきた3校の教師と学習評価に知見のある識者が、仕組みを構築する上で留意すべき点と、実践を通じて見えてきた課題について語り合った。



京都大学大学院
教育学研究科 准教授
石井英真

広島県立神辺旭高校
西村 由
プロフィールは P.13

千葉県立千葉北高校
和泉雄介
プロフィールは P.7

静岡県立静岡東高校
神谷隼基
プロフィールは P.10

石井先生と振り返る3校の実践上のポイント



京都大学大学院教育学研究科 准教授
石井英真
いしい・てるまさ

専門は教育方法学。学校で育成を目指す資質・能力を構造化・モデル化し、それらを実現するためのカリキュラム、授業、評価、教師教育について総合的に研究。主な著書に、『授業づくりの深め方「よい授業」をデザインするための5つのツボ』（ミネルヴァ書房）、『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論 観点別評価で学力を伸ばす「学びの舞台づくり」』（図書文化）など。

千葉北高校の

観点別評価の実践

P.7 参照

各教科が作成する科目ごとのシラバスに、評価の方法や材料、3観点のルーブリックを明記し、それに基づいた学習評価を実施。パフォーマンス課題も積極的にやっている。

和泉 私が担当する英語であれば、これまでもプレゼンテーションやスピーチなどのパフォーマンス課題を実施していました。しかし、その評価は、「大体話せている

な」といった感覚的なものにとどまっていました。観点別評価を実施し、声量やジェスチャーなど、評価の観点を生徒に明確に示すことで、教師の評価の軸が定まり、生徒へのフィードバックが具体的になるとともに、生徒が評価の観点を踏まえた準備を意欲的に行うようになりました。

石井 何を、いつ、どのような方法で測るのかを示す評価計画、学習の到達度を示す評価基準を生徒と共有することで、何を、どのように頑張れば学習改善につながるかが、生徒は理解できます。その結果、主体的に学習に取り組み

やしくなります。英語のパフォー
マンス課題で示した声量やジェス
チャーなどについての評価基準は、
生徒にとっては「この点を気をつ
ければよい」といった学習のポイ
ントとなるものであり、教師に
とっては教育目標でもあります。

静岡東高校の

観点別評価の実践

P.10 参照

教科・科目ごとにシラバスを
作成し、それに各単元の学習
目標や授業展開、育成を目指
す資質・能力を明示。定期考
査やパフォーマンス課題で判
明した学習上の課題を、生徒
にフィードバックしている。

神谷 私が担当する2年生の数学
では、定期考査の問題を観点別に
作成するとともに、各観点の評
価結果に応じて4パターンの学習
アドバイスを準備し、生徒一人ひ
とりにオンライン上で伝えていま
す。併せて、定期考査を実施して
明らかになった生徒の学習上の課

題を採点レビューとしてまとめ、
それらを今後の参考にしてもらう
ために、生徒に配布しています。

石井 採点レビューはともよ
取り組みだと思えます。観点別
作成した問題の生徒の解答を丁
寧に見る中で、学習上のつまづき
がこれまで以上に深く分かるよう
になるからこそ、教師はそれを生
徒にフィードバックすることがで
き、生徒はそのフィードバックを
学習改善に生かすことができま
す。教師間で生徒のつまづきを共
有すれば、授業改善に生かせます
し、さらに次年度の担当教師にも
引き継げば、学校全体の中長期的
な授業改善につながります。

3校の実践から見えてきた

観点別評価を 指導・学習改善に つなげるポイント

P.7～15で紹介した3校の実践から、
観点別評価を教師の指導改善と生徒
の学習改善につなげる仕組みを構築
する上で欠かせないポイントを整理
すると、次の4点となる。

1. 育成を目指す資質・能力が生徒に
どれだけ育てているかを、観点別
評価を通じて的確に捉えるとともに、「主体的・対話的で深い学び」
の視点からの授業改善を図る「指
導と評価の一体化」についての共
通認識が、校内で得られている。
2. 何を、いつ、どのような方法で測
るのかを示す評価計画が、シラバ
スやルーブリックなどを通じて生
徒、教師に共有されている。
3. 観点別評価で明らかになった成長
や学習上の課題を、生徒にフィ
ードバックしている。
4. 観点別評価の結果を、目標と照ら
し合わせて、教師が検証する機会
や場がある。

次ページでは、
指導・学習改善につながる
観点別評価の実践上の課題
について、石井先生と考えます

神辺旭高校の

観点別評価の実践

P.13 参照

資質・能力の3つの柱の育成
について、単元ごとに指導と
評価の計画を立案。観点別評
価で把握した生徒の学習上の
課題を踏まえて、次学期の指
導・評価の計画を臨機応変に
改善している。

西村 観点別評価が充実したこと
で、生徒の定期考査の結果の分析
を通して、「長文読解で求められ
る思考力が十分ではない」などと、
生徒の弱点を把握しやすくなりま

した。それを受けて、次の単元の
指導計画を変えたり、生徒に個別
に声をかけをしたりしたところ、定
期考査の成績が早くも向上するな
ど、生徒も教師も手応えを感じる
ことができています。

石井 観点別評価によって明らか
になった生徒のつまづきを基に、
教師が新たな教育目標を設定して
迅速に指導を改善し、生徒に学び
の手応えを感じさせることができ
ている好例だと思います。評価と
いうと、評定に代表されるような
数値化が目的のように思われがち
ですが、本来の評価の目的は、生
徒の学びの状態を知る、生徒理解
そのものなのです。

Q 平常点で救われていた生徒への対応は？

これまで、課題の提出率や授業中の態度を評価する、いわゆる平常点で、ペーパーテストの点数が低い生徒を救済していた面がありました。しかし、パフォーマンス課題の成果物で「主体的に学習に取り組む態度」を評価するようになると、特に学力下位層の生徒の評価は低くなってしまいます。どうすればよいでしょうか。

A 学びのプロセスの評価を充実させる

石井 パフォーマンス課題では、生徒の成果物だけでなく、生徒の学習意欲を評価の観点としたいという気持ちは、私もよく分かります。ただ、表面的な頑張り以上に、**学びのプロセスにおける試行錯誤や工夫を評価していくことが大切です。**生徒自身に、ここは頑張った、ここにこだわったといったことを自己申告させることで、パフォーマンス課題にどう「主体的に」取り組んだのかが分かりますし、提出物を期日通りに出したかどうかだけでなく、学びのプロセスにおける苦勞を語らせることで、思考力や判断力と一体化した形での粘り強さも見えてきます。

パフォーマンス課題を評価する際には、真面目に取り組んだかという態度や、よい成果物を出せたかという結果だけに目を向けるのではなく、**学びのプロセスにおいてどのような資質・能力を発揮したかを見取るようにするとよいでしょう。**

Q 定期考査は変わったが、授業が変わらない

観点別評価に対する関心が、「どのような試験問題を作成すれば評価することができるのか」といった、本質ではない部分に移ってしまい、学習評価を授業改善につなげるための議論ができないこともありました。観点別評価の実践をより本質的なものにするために必要なアクションを教えてください。

A 資質・能力ベースで目標を定め、「目標と指導と評価の一体化」を

石井 観点別評価の導入によって定期考査の形式は変わったけれど、授業はこれまでとほとんど変わらないといった先生も少なくないようです。そもそも、生徒に思考力や判断力などを育むためには、定期考査で論述問題を増やせばよいのかというと、そうではありません。重要なのは、**論述問題であるかどうかではなく、思考力や判断力を評価することができる問題であるかどうかです。**そして、**思考力や判断力を育むには、日々の授業の改善が何よりも不可欠です。**授業の中に、そうした資質・能力を発揮しなければ取り組めないタスクを埋め込むことが重要になります。

先生方が「このような力を持った生徒を育てたい」と、出口の生徒の姿から資質・能力ベースで目標を定めると、授業における生徒への働きかけはおのずと変わっていきますし、評価の場面でもそれが達せられたかどうかを見たくなるはずで**す。**大切なのは、先生方の「**目標と指導と評価の一体化**」だと思います。

定期考査での評価の

精度を上げるために

学力を3つの階層で捉え直し、作問する

「知識・技能」の1つを取っても、その記憶なのか、理解なのか、教師によって捉え方が異なります。空所補充問題で知識・技能を測り、記述式問題で思考力を測るといった単純な分類をしたペーパーテストは、診断力が高いとは言えません。

定期考査などでの診断力を上げるためには、学力を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点だけでなく、「知っている・できる（知識の獲得と定着）」「分かる（知識の意味理解と洗練）」「使える（知識の有意義な使用と創造）」の3つの階層で捉えるるとよいでしょう。そして、「分かる」までを目標とするのか、「使える」までを目指すのか、それらを評価するために適切な方法はどのようなものなのかを考えます（図）。例えば、ひとくちに数学の学力といっても、計算の仕組みを知っている、正確に計算を実行できる力や計算の概念を理

Q 評定に総括したところ、 「4」の生徒ばかりに

観点別評価を実施したところ、ある教科でほとんどの生徒の評定がB以上になり、評定に総括すると、多くの生徒に「4」がついてしまいました。これまでの評価と比べると、しっくりこないのですが、どのように考えればよいでしょうか。

A 「4」がついた生徒数ではなく、 「4」の基準に着目を

石井 観点別評価がBに集中したり、評定が「4」の生徒が多くなったりすることに違和感を持つかどうかは、評定を点数的に考えているのか、資格試験的にレベルとして考えているのかによります。現在の学習評価は、相対評価ではなく、目標に準拠した評価ですから、一定の基準に達した生徒は「3」になり、またそれ以上の一定の基準に達した生徒は「4」になります。学校として「4」の基準が適切に設定されているのであれば、「4」がつく生徒が多くなること自体は、全く問題はありません。

「『4』がつく生徒が増えたけれど、これでいいのだろうか？」と違和感を抱くのは、教師も、そして生徒も、目標に準拠した評価への転換の途上にあるからかもしれません。相対評価から目標に準拠した評価への転換は、単なる仕組みの変更ではなく、**私たちの心の中にある評価の物差しを変えること**ですから、少し時間はかかると思います。

Q 振り返りなど、 評価材料が多すぎる

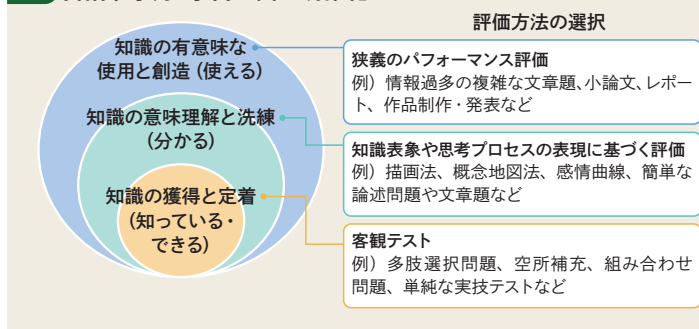
「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」の観点を評価するための材料として、振り返りを始めとする、様々なワークシートに取り組ませています。しかし、評価材料が多くなりすぎて、十分に活用できていないといった声も上がっています。生徒に書かせすぎなのではないかとも思います。授業改善の材料として大切にしたい気持ちもあるのですが……。

A 何のための評価材料かを考える

石井 総括的評価は全数調査が必要ですし、根拠となる証拠も必要です。しかし、教育目標を達成するために指導がうまくいっているかを途中で確認するための形成的評価は、全数調査を行う必要がありませんし、机間巡視などを通して「この生徒が理解できたのなら、次の内容に進んでも大丈夫」といった先生方のプロとしての観察があれば十分に成立するものです。総括的評価と形成的評価を混同していることが、先生方が多忙感を覚える背景にあります。今行っているのは、**形成的評価なのか、総括的評価なのかを整理していくことが、先生方の負担の軽減にもつながります。**

後で評価する際に役立つかもしれないという理由で振り返りを始め、いろいろな材料を集めるのではなく、**教育目標の達成度を確認するために必要な材料を重点的に収集するようにすれば、生徒や教師は評価疲れから解放されるでしょう。**

図 目指す学力・学習の質の明確化*



解する力、現実の場面で粘り強く考えたり、学び合ったりして、問題を解決する力と、様々です。ドリル学習が知識・技能を育み、活用型の学習が思考力を育むといった単純な話ではないのです。3つの観点に「知っている・できる」「分かる」「使える」を重ねて、生徒にどのような学力を育もうとしているのかを考えることで、評価の精度の高い問題の作成や、課題の設定ができるようになります。

*石井英真『中学校・高等学校 授業が変わる学習評価深化論 観点別評価で学力を伸ばす「学びの舞台づくり」』（図書文化）より。

目標と評価を活用して教育を行う スウェーデンの学習評価の特長と課題

1990年代から、全国共通の目標と評価基準を設定して、資質・能力ベースの教育を推進しているスウェーデン。高校や大学の入学者選抜では、主に中学校や高校での成績を基に選抜が行われる。そのため、同国は、国内すべての学校が同じ評価基準で成績をつける仕組みを整え、公平性や信頼性の担保を図っている。同国の教育について研究する金沢大学の**本所恵**准教授に、同国の学習評価の特長と課題について聞いた。



金沢大学 人間社会研究域学校教育系
准教授

本所 恵 ほんじょ・めぐみ

京都大学大学院教育学研究科博士課程修了(教育学)。日本学術振興会特別研究員などを経て、2012年より現職。専門は教育方法学、カリキュラム論。スウェーデン・ウツサラ大学教育学部客員研究員などを歴任。「北欧教育研究会」に参加。著書に、『スウェーデンにおける高校の教育課程改革―専門性に結び付いた共通性の模索(新評論)』、『北欧の教育最前線―市民社会をつくる子育てと学び』(共著、明石書店)など。

試験はなく、学校の成績で 上級学校への合否が決まる

まず、スウェーデンの進学制度についてお話しします。同国では、義務教育である基礎学校(10年間、*1)を修了後、ほぼ全員が高校(3年間)に進学します。基本的に入学試験はなく、大半の生徒が希望する学校・学科に入学します(図1)。高校卒業後の希望進路が大学進学・就職のいずれでも、学びたい学問や将来の職業を見据え、学科を重視して選択するのが一般的です。高校の学科は、大学の専門分野や社会の産業を反映して細分化されています(*2)。

大学進学の際にも入学試験はなく、多くの生徒が希望の大学・学科に入学します。志願者が多い大学・学科では入学者選抜が行われますが、合否の材料は高校での成績です。高校・大学とも、スウェーデンではそれまでの学校の成績によって選抜される点が、1回の入学試験で合否が左右される日本の制度との大きな違いと言えます。

整備されたシステムを生かし、 指導・学習評価を創意工夫

次に、スウェーデンの基礎学校や高校における学習評価についてお話しします。同国では、1990

年代に学校教育改革が行われました。以前は、教育の内容や方法が具体的かつ詳細に定められていましたが、新たな制度では、各教科の教育目標と評価規準を定めて、詳細は教師の裁量としたのです。

2000年代にはPISA(*3)の影響もあって学習評価に関する議論が盛んになりました。ナショナル・テストの教科や学年が増加し、学校教育庁が定める全国共通のナショナル・カリキュラムには、教科ごとに教育目標に対応する評価基準が定められました。教師と生徒が各教科の目標と評価基準を共有することで、教育目標の達成に向けた指導・学習改善が行いやすくなったのです。

22年に行われた基礎学校のナショナル・カリキュラムの改訂では、各教科で育成を目指す資質・能力が示され、より資質・能力ベースの教育になりました。示された資質・能力は、日本のものと比較すると、他者がいる現実的な状況の中で、学んだことをどう用いるかという視点が強く意識されています。

*1 2018年に就学前クラス(0年生)が義務化され、10年間となった。 *2 高校の学科には、卒業後に大学進学を目指す学科として、自然科学、社会科学、人文、経済、芸術、技術の6学科が、各職業分野の基礎を学ぶ学科として、建設・設備、輸送機器・運輸、手工芸、自然資源活用、ホテル・観光、福祉・介護などの12学科がある。同国では、生涯学習の機会が保障されているため、高校進学時の選択の結果によって、その後の人生が決まってしまうわけではなく、後に専門分野を変えたり、転職したりすることが可能な社会システムが構築されている。 *3 経済協力開発機構(OECD)が行う生徒の学習到達度調査。

図1 スウェーデンの学校教育 日本との主な違い

- **授業** ナショナル・カリキュラムで定められた各教科の教育目標、育成を目指す資質・能力、評価基準を基に、教師が指導計画を作成して実施。
- **教科書・教材** 検定教科書はなく、教材は、教師が教育目標に合わせて選択。
- **成績** 国内のすべての学校が、ナショナル・カリキュラムに定められた評価基準に準拠し、A～Fの6段階で成績をつける。成績をつけられるのは、教員免許を持った教師。なお、成績を受け取るのは、小学6年生から。成績を6段階とするのは、義務教育から成人教育まで、すべての教育段階で共通。
- **評価基準** A・C・Eの成績をつけるための全国共通の評価基準が定められている（図2に評価基準Eの例）。BはAとCの間、DはCとEの間、Fは不合格。例えば、Cの基準はすべて満たすが、Aの基準は一部満たさない場合はBとなる。そうした判断は教師に委ねられている。
- **評価材料** ペーパーテストやパフォーマンス課題など、多様な形式での成果物が評価材料になりうる。全国悉皆のナショナル・テストにおいても、グループ課題やテーマ課題など、多面的な評価が試みられている。
- **高校入学** 基本的に入学試験はなく、多くの生徒が希望する学校・学科に入学。入学希望者が多い場合、基礎学校での成績で選ばれる。
- **大学入学** 生徒が希望の大学・学科に申し、高校での成績に関する要件を満たしていれば入学することができる。志願者が多い大学・学科では、高校での成績、あるいは入学試験の結果などを基に選抜が行われる。

※本所准教授への取材を基に編集部で作成。

図2 スウェーデンの9年生(中学3年生)数学科の目標と評価基準

目標 数学科の授業では、生徒が以下の能力を発達させる条件を与えなくてはならない

- 数学的概念及び概念間の関係を使用し、説明する力
 - 計算を行い、単純な問題を解くために、適切な数学的方法を選んで用いる力
 - 数学を用いて問題を定式化して解決し、その選択した解法を評価する力
 - 数学的に推論したり、それをたどったりする力
 - 問題設定、計算、結論について、話ししたり、実施したりするために、数学的な表現形式を用いる力
- **評価基準E**
- 生徒は、数学の概念と使用方法に関する基礎的な知識を示し、数の理解と数の利用、代数、図形、証明、統計の分野における概念及び概念間の関連を説明し、関連と変化を満足のいく確かさで説明する。
 - 生徒は、数の理解と数の利用、代数、図形、確率、統計及び関数と変化の分野において、計算をしたり、単純な問題を解いたりするために、主にはうまくいく数学的方法を、満足のいく確かさで選んで用いる。
 - 生徒は、単純な問題を解く。生徒は他の方法を提案することに何らか貢献する。問題解決において、生徒は、文脈に適用できる簡単な数学モデルを定式化したり、それに貢献したりする。生徒は、簡単な方法で戦略や結果の妥当性を評価する。
 - 生徒は、簡単な数学の議論を提示したり、それに応答したりを通して、数学的推論を行ったり、それをたどったりする。
 - 生徒は、主にはうまくいく方法で思考過程を説明して話し合い、記号やその他の数学的表現形式を用いる。

上記は、評価基準Eであり、A・Cでは、下線部の文言のレベルが変わる。例えば、「生徒は、数学の概念と使用方法に関する（A：とてもよい／C：よい／E：基礎的な）知識を示し」となる。

※スウェーデンの9年生の数学科のナショナル・カリキュラムの一部を本所准教授が翻訳。それを基に編集部で作成。

学習評価は、全国共通のナショナル・カリキュラムで定められた各教科の評価基準に準拠して行われ、成績はA～Fの6段階です（図1）。評価基準の記述は簡潔で、A・C・Eのみが示されます。BはAとCの間、DはCとEの間で、どの基準を満たしているかの判断は教師に委ねられています。検定教

科書もなく、教師はナショナル・カリキュラムが定める教育目標の達成に向けて、自身の裁量で指導と学習評価をデザインすることができるのです。スウェーデンの学校教育は、整備されたシステムを前提に、教師の創意工夫が生かされるところに特長があります。教師の裁量の

政策の成果はデータで検証し、国を挙げて改善サイクルを回す

範囲が広いことで、教師が指導や学習評価のあり方を自分たちで考え、話し合い、改善していく土壌ができています。

高校では、科目によって履修期

間が異なるため、履修科目の修了時に総括的評価が行われ、教員免許を持った教師の責任の下で成績がつけられます。進学の際には、前段階の学校の成績が選抜の材料となるため、成績証明書や卒業証書には公的文書としての重みがあります。学習評価の材料は、ペーパーテ



写真 スウェーデンの学校教育庁ウェブサイトには、学習評価を行う際に参考となる、多くのコンテンツが掲載されている。https://www.skolverket.se/

ストの結果やパフォーマンス課題の成果物などです。入学者選抜の資料となる成績には公平性・信頼性が強く求められるため、全国共通の評価基準に加え、成績の全国的な比較を可能にするために、複数の教科・学年では悉皆のナショナル・テストが行われています。さらに、例えばは数学のテストでは、育成したい資質・能力の観点から、グループで取り組む課題や特定のテーマに沿って集められた課題を出すなど、多様な出題形式が用意されています。

また、学校教育庁は、学習評価に関するウェブサイトを設け、パフォーマンス課題を例示したり、

学習評価を行う際のアドバイスをしたりして、教師の実践を支援しています(写真)。

以上のように、学習評価の公的な枠組みは整備されていますが、成績の公平性や信頼性については議論の余地があり、活発に議論されています。各学校のナショナル・テストの成績など、教育データへのアクセスは容易であり、関係者がデータに基づいて議論できる環境も整っています。また、政策の成果をデータを基に検証したり、新しい政策はモデル校で試行してから実施したりと、国を挙げてP D C Aサイクルを回しています。そうした取り組みは、日本の教育行政にも参考になるはずです。

学年末課題に、6コマをかけて取り組む

スウェーデンでのパフォーマンス課題の一例をお伝えします。ある高校では、2年生が文化・美術史の学年末課題として、美術史から1つの時代を選び、時代背景とアートの特徴に関するレポートを

作成して、口頭発表する課題に取り組んでいました。その課題には6コマ分の授業が充てられ、教師はレポートのサマリー指導や、先輩が作成したレポート・プレゼンテーション資料の例示などを行っています。

評価対象は、レポートやプレゼンテーション資料といった成果物に加えて、友人との議論や課題に取り組む姿勢など、多様なパフォーマンスです。その結果によつて成績がつけわけですが、学んだことを他者に伝えようと試行錯誤する中で表現力が磨かれるなど、日本の探究学習と同様に、課題に取り組む過程そのものが生徒の学びになっています。

なお、子どもが成績を受け取るのは小学6年生からです。以前はもっと遅く中学2年生からでした。成績提供の早期化の目的は、子どもに早めに目標と課題を意識させ、学習意欲を高めることにあります。ただし、子どもにストレスがかかることへの懸念や、教育効果の面からの反対意見も多く、今も議論が続けられています。

学習動機やニーズによって、学習者自身が目標を設定

最後に、私のスウェーデンでの学習経験をお話しします。同国の成人教育機関には、基礎学校や高校の科目を学び直せる講座があり、私は高校レベルのスウェーデン語講座を受講しました。その時、最も驚いたのは、学習者自身が評価基準を読み、自分の学習動機やニーズに応じて目標を設定することでした。受講理由によつて目標は異なつて当然という考えから、教師からは目指すべき目標が提示されませんでした。一番よい成績のAを目指すのが当然だと思つていた私は驚きました。

教師のフィードバックの内容も、学習者が設定した目標に応じて変わります。AならAの、CならCの、目標に到達するための助言をするのです。学習動機やニーズに応じた指導をするのは合理的かつ効果的だと思つました。そうした指導や学習評価のあり方は、日本の学校教育にとつても参考になる点があるのではないのでしょうか。

参考文献：中田麗子・佐藤裕紀・本所恵・林寛平編、北欧教育研究会著『北欧の教育再発見（仮題）』（明石書店、近日発刊予定）。伊藤実歩子編著『変動する大学入試 資格か選抜か ヨーロッパと日本』（大修館書店、2020年）。

For School Section

学校改革や組織運営に役立つ
事例や情報を、
先生方の思いを乗せてお届けする

P.24

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

進路担当

指導変革の軌跡

その時、教師は何を考え、どう動いたか。
学校改革の過程を当事者の言葉で追う

東京都・私立日本大学第三中学校・高校

探究学習の推進

中堅・若手教師による先行授業や研修会を通じて、
探究学習の指導方法と体制を確立

P.28

お勧めの分掌 ▶

管理職

教務担当

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

現場が直面する課題や疑問の解決に
つながる事例や解説記事を提供

「総合的な探究の時間」を通じた
キャリア・進路観の形成

ウェブセミナー

「学び続ける生徒の育成に向けて、新課程における教育実践と深化」第6回
生徒のキャリア・進路観の形成につながる
「総合的な探究の時間」とは

P.32

お勧めの分掌 ▶

学年団

担任



学年団を訪ねて

学年経営に悩む先生方に！
チームづくりの秘訣を掘り下げる

長野県こもろ小諸高校 3学年団

1年次4月からの迅速な指導改善を、
長年の学校課題の突破口に

P.36

お勧めの分掌 ▶

管理職



いざという時の対応は平時の準備で決まる。学校危機管理の専門家が解説

校則に関するトラブル

図1 「自求自探 五箇条」

一、よく観察せよ

- 物事をじっくり観察し、課題を発見しよう。
- 現状はどのようにになっているか、どのような問題が潜んでいるかを正確に把握するための第一歩は「観察」である。

二、常識を学べ

- まずは世間で「常識」と言われていることが何であるかを知ろう。
- その上で、「常識」にとらわれず、あえて別の見方をしてみよう。そこに問題解決の突破口がある。

三、自ら考え挑戦せよ

- 予測不能な時代であることを念頭に、自分で考える意識を持とう。
- 探究活動に正解は存在しない。
- まずはアイデアを数多く出してみよう。
- アイデアを言える勇気を持とう。
- みんなが意見を言える雰囲気づくりを心がけよう。

四、粘り強く取り組み

- すぐに答えが出せる、取り組めるものは、根本的な解決ではないと心得ておこう。
- これからも皆さんが直面するであろう課題は、一朝一夕に解決できるようなものはほとんどない。
- 挑戦→失敗→反省→新しい挑戦→失敗→反省……の先に突破口がある。
- 失敗してあたり前、失敗から学ぼうとする姿勢を身につけよう。

五、ともに楽しむ

- どんなに博識でも、人間のものの見方には限りがある。
- 他の人たちの意見に耳を傾けよう。
- 一見、受け入れがたい、驚くような内容も、よく話を聞けば、新たなものの見方の獲得につながる。
- 様々なものの見方を身につけることで、様々な立場に立て物事を考える想像力が身につく。

同校が視察した京都府・京都市立堀川高校の「探究五箇条」を基に作成した。
※学校資料を基に編集部で作成。

げた。委員が手分けをして、先進校を視察したり、校外研修に参加したりして、探究学習についての理解を深めるとともに、探究学習を通じて育成を目指す資質・能力として、「自求自探の五箇条」を策定(図1)。カリキュラムは、1年次は、問いの立て方やプレゼンテーションの方法など、探究に必要なスキルを学び、2年次は、ゼミに分かれて探究学習を行う内容とし、オリジナルのテキストも作成した。

そして、20年度は、全校実施に先駆けて、探究推進委員の小澤良太郎先生が担任を務める特進クラス(全2クラス)で、LHRの時

間に探究学習を始めた。先行授業の目的は、探究学習の指導が未経験の教師でも授業が行える方法を探ることであった。

「私と、探究学習の指導経験がないもう1クラスの担任とで、情報共有をしながら授業を進め、クラス間で大きな差が出ない授業を行うためには、どの程度の枠組みがあればいいのかを確認しました。その結果、共通の指導案やテキストがあれば、授業前の打ち合わせに時間をかけなくても、教師がそれぞれの個性を生かして、時間内に必要な活動ができることが分かりました」(小澤先生)

さらに、先行授業での生徒の発言や様子を踏まえて、「この課題に取り組む前に、調べ学習を行った方がよい」などと、活動の順序を入れ替えたり、活動を追加したりして、年間指導計画やテキストを改訂していった。

チーム・ティーチングに向けて、「探究メンバー」を編成

21年度には、探究学習をテーマとした校内研修を実施した。総合探究の授業は、担任ともう1人の教師によるチーム・ティーチング(以下、TT)で行うことにしたため、1学年10クラスを担当する20人の教師が探究学習の指導を行えるようにする必要があった。そこで、探究推進委員会は、管理職と相談し、22年度に総合探究を担当する中堅・若手教師に声をかけ、生徒の探究をファシリテートする「探究メンバー」として位置づけ、ともに準備を進めることにした。約2か月に1回、特進クラスの先行授業を見学したり、模擬授業を行ったりしてスキルアップを図った。

研修の場では、若手教師が発言しやすい雰囲気づくりに努めたと、金子先生は語る。

「先生方には、教職歴や経験にかかわらず、率直にアイデアを出し合い、みんなで新しい授業をつくっていきましようと呼びかけまし

た。グループワークを3〜4人の少人数のグループで実施したところ、感じたことや自身の授業を基にした指導のアイデアなど、積極的に発言する若手教師の姿が見られ、活発な意見交換ができました」

普段あまり接点のない他学年の教師同士が一緒に行った研修は、教師にとつての探究の場だったと、小澤先生は語る。

「経験の浅い探究学習の指導について意見を述べ合うことで、互いの考えを理解し、自分たちはよりよい探究学習をつくらうとしているのだと、多くの教師が感じましたと思います」

授業での教師の留意点をまとめ、学年全体で共有

そうした3年間の準備を経て、22年度、1学年の全クラスで総合探究を始めた。研修を受けていない教師が1学年の担任となった場合は、探究推進委員が探究メンバーをT2につけたことで、「一緒に準備ができるので心強い」「互いに自分にはない発想を学べる」といった声が上がっている。また、「探究学習での教師の役割と、授業で意識すること」をまとめて、教師間で共有した(図2)。

1学年のカリキュラムは、10月まではオリジナルのテキストで探究のスキルを磨き、11月からは6つの企業から出された販売促進や新企画にかかわる課題に、3〜5人のグループで取り組み、その成果を3学期に発表するというものだ(図3)。

一連の活動の中で、生徒の違った一面を見ることも少なくないと、榎本先生は言う。

「教科の授業ではあまり発言しない生徒が、総合探究の授業で、プレゼンテーションの資料を緻密に作り込んだり、生き生きと発表したりする姿が見られています。そうしたクラスメートの姿に刺激を受けて、『自

図2 探究学習での教師の役割と、授業で意識すること(抜粋)

- **授業を進めるのは生徒。教師はアドバイザー的な役割**
教師は教える立場ではなく、生徒たちが活発に意見を言える雰囲気づくりをするよう努める。
- **「分かりません」は、NGと言い続ける**
答えがない問題に対して挑戦する生徒たちを後押しする。
- **生徒たちが取り組む時間を意識した授業計画を**
生徒たちが話し合う時間を設定し、その時間内で何かしらの意見や結論を出せるようにする。
- **生徒よりも話す時間を短くする**
教師は問題提起などの説明にとどめ、話し合いはできるだけ生徒たちで行わせる。教師が話してはいけないということではない。
- **生徒の発言を否定しない**
せっかく発言しても、否定されると発言する気を無くす。明らかに間違った意見であったとしても、意欲があって発言した場合には、発言した行為や努力を褒める。考え方や答えを訂正する時は、授業中ではなく、個人的に話をするのがよい。

※学校資料を基に編集部で作成。



探究推進委員長、国語科主任
金子美保 かねこ・みほ
教職歴22年。同校に赴任して23年目。国語科。



高1学年主任、探究推進委員
榎本俊介 えのもと・しゅんすけ
教職歴18年。同校に赴任して14年目。生徒指導部。地理歴史・公民科(日本史)。



英語科主任、探究推進委員
小澤良太郎 おざわ・りょうたろう
教職歴20年。同校に赴任して15年目。教務部・特進委員。英語科。



中3学年副主任、探究推進委員
山田秀行 やまだ・ひでゆき
教職歴17年。同校に赴任して13年目。進路学習部。数学科。

分もこうしたい』などと、積極的に発言する生徒が増えています」

23年1月には、クラス内でグループ発表を行い、生徒の投票によって1〜2グループをクラス代表として選出。2月には、最大20グループで学年発表を行う。

そして、23年度の2学年では、13〜15のゼミを設け、生徒それぞれが取り組みたいテーマに応じてゼミを選択。クラス横断でグループをつくり、「探究ナビBasic」(※1)を活用しながら探究学習を進める計画だ。

*1 ベネッセの教材の1つで、楽しくて分かりやすい説明ステップに沿って、生徒が探究を体験し、前向きに探究の基礎スキルを身につけることができる教材。

変革の成果・展望

探究学習の指導経験を部活動の指導に生かす

特進クラスで先行授業を行った学年は、22年度に3年生となり、探究学習に2年間取り組んだ成果が出ている。例えば、進路学習で発表を行った際、2年生までは普通クラスだった生徒の発表資料が、インターネット上の画像をまとめただけのものだったのに対し、特進クラスのある生徒は、自分の希望進路である法学部の知識と、自身が関心を持つ放送規

図3 1学年の「総合的な探究の時間」のカリキュラム

学期	探究とは
1学期	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動に必要なスキルの修得 観察力を鍛える、探究の5箇条 振り返りの重要性、振り返りの仕方、探究活動の評価について 対話の訓練、ツッコミ力、フェルミ推定、I F力 1学期の振り返り
2学期	<ul style="list-style-type: none"> 2学期の流れを説明 夏季休業中の課題の確認・発表 キーワードの掘り下げ方 企業インターンワークについての説明
3学期	<ul style="list-style-type: none"> グループで、企業から出された課題に取り組む 2学期の振り返り グループで、企業から出された課題に取り組む グループ活動の結果をクラスで発表 学年全体で発表

・2年次に向けたガイダンス

※学校資料を基に編集部で作成。

制について組み合わせた資料を作成し、より深みのある発表を行っていた。

「2年間の先行授業では、教師は、『別の視点はないか』『ほかにも調べたか』などと、テーマを深く掘り下げさせたり、視野を広げさせたりする声かけをしてきました。そうしたことによつて、探究の質を高めるためには何が必要なのか、生徒が自ら考えるようになりました」（小澤先生）

教師も、探究学習での経験をほかの教育活動に生かしている。探究推進委員の山田秀行先生は、顧問を務めるテニス部で、部員が話し合つて練習内容を決めるようにした。

「以前は、先輩から代々伝わる練習を中心に取り組んでいましたが、22年度から、試合前のウォームアップなどを部員が考える場を設けました。すると、練習の意味や効率を考えたり、議論したりするようになりました。その結果、より熱心に、より集中して練習に取り組むようになり、成果を上げています」

課題は、振り返りの簡素化と全教師の意識改革

今後の課題は、振り返りの改善だ。現在は、

「授業でうまくいったこと」「自身の変化」「グループでの他者評価」などを、自由に記述する振り返りシートと、「洞察力」「理解力」「挑戦力」などの6項目についての自己評価を「Class」(*2)に入力する振り返りを毎授業行っている。それらと同じ項目で教師が生徒を評価し、双方を反映したリフレクションシートを学期に1回作成しているが、その方法では振り返りに多くの時間を要する点が課題となっている。そこで、選択形式で回答・集計ができる「Class」の振り返りに一本化するなど、簡素化する方向で検討している。

また、探究学習の指導が未経験の教師が、今後1・2学年の担任を受け持つことを見据えて、探究学習の意義を浸透させていくことにも力を入れている。

「総合探究の指導経験者と未経験者を組み合わせるITTにおいて、未経験者が戸惑いなく指導できるようにし、指導を継承していきたいと考えています。また、2学年の総合探究では、担当となった教師の専門性や興味・関心に応じたゼミを設けるなど、学年の状況に応じてゼミの内容を変えることも検討中です。探究推進委員が一方的に主導するだけでは、教師の意欲は高まりません。持続可能な取り組みになるよう、教師のやりがい高めする方法を模索していきます」（金子先生）

*2 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。

新学習指導要領がスタートした2022年度、学校現場には資質・能力を育成するための指導と評価を積み重ねながら、より自校に合った形へと軌道修正していくことが求められる。現場が直面する課題や疑問を解決し、よりよい計画・実践につながる情報を提供する。

— 疑問や課題を解決！実践につながる！ —

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

テーマ

「総合的な探究の時間」を通じた キャリア・進路観の形成

セミナーレポート

ウェブセミナー「学び続ける生徒の育成に向けて、新課程における教育実践と深化」第6回
生徒のキャリア・進路観の形成につながる
「総合的な探究の時間」とは

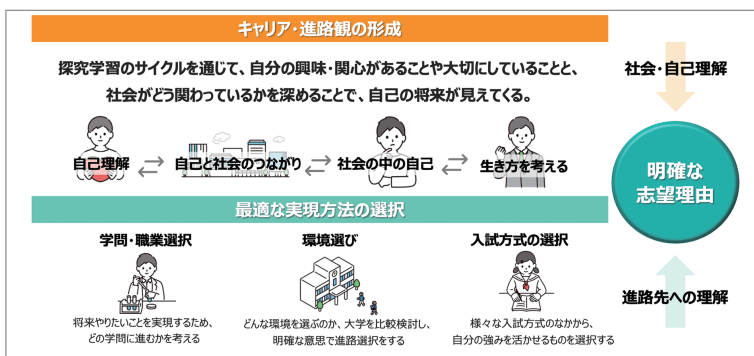
各校で「総合的な探究の時間」を中心に探究学習が充実する一方で、「探究学習での学びが、生徒のキャリア・進路観の形成に十分につながっていない」といった課題を感じている教師は少なくない。そこで、ベネッセ教育情報センターでは、「総合的な探究の時間」の全国の現状や、キャリア・進路観の形成につながる「総合的な探究の時間」の設計の先進事例を紹介するウェブセミナーを実施した。

探究学習を通して、 明確な志望理由を醸成

「総合的な探究の時間」における課題として、授業の設計の仕方や、教師間の指導力の差などに加え、進路指導との連携の難しさを挙げる教師は少なくない。その背景にあるのが、学校推薦型・総合型選抜の拡大だ。学校推薦型・総合型選抜では「明確な志望理由」が問われるが、志望理由を深める場の1つとして期待されるのが、「総合的な探究の時間」だ。探究する課題を考える中で、自分の興味・関心や価値観を掘り起こし、それが社会の問題とどうかかわっ

ているのか、自分は社会でどんな役割を果たせそうか、といった問いに向き合うことを通じて、「将来やりたいこと」が明確になっていくからだ(図1)。また、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現という探究のサイクルを何度も回し、探究学習に必要なスキルを習得することで、自身の将来を考え、志望理由を深める力、すなわち、キャリア・進路観を深める力を身につけることができる。「総合的な探究の時間」をどのように設計すれば、生徒のキャリア・進路観を深める力を養うことにつながるのか。実践例を通して考える。

図1 明確な志望理由の創造のプロセス



※ウェブセミナーの投影資料をそのまま掲載。

「総合的な探究の時間」

——生徒の主体的な探究を目指して

栃木県・私立宇都宮文星女子高校

篠原孝文

探究のサイクルを年に2回、3年間継続して回す

栃木県・私立宇都宮文星女子高校普通科・総合ビジネス科では、大学調べ・職業調べなどを中心に、「総合的な学習の時間」を展開してきた。同授業では、高校卒業後の進路を決めることに重きを置いていたため、生徒の関心や大学での学び、職業などを、社会課題と結びつけることが十分にできていなかったという。また、生徒が自らの考えを論理的に表現する機会



栃木県・私立
宇都宮文星女子高校
篠原孝文
しのはら・たかふみ

教職歴23年。同校に赴任して23年目。学習指導部長。ICT推進部長。地理歴史・公民科。

も確保していなかったため、3年生になって志望理由書の作成に苦労する生徒も少なくなかった。そうした課題を踏まえて、同校では、「探究ナビBasic」(*1)を活用し、キャリア・進路観や論理的思考力の形成につながる「総合的な探究の時間」の設計に着手した。

同校の「総合的な探究の時間」の特徴は、1年間に2回、探究のサイクルを回すことだ(図2)。1年次の前半は、自分の関心事を探究し、課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現・振り返りの一連のサイクルを回す。1年次の後半は地元・栃木、2年次には日本、そして3年次には世界と、視野を広げながら課題やテーマを設定し、探究活動を深めていく。最初は自分の身の周りのこと

図2 「総合的な探究の時間」3年間のスケジュール

学年	時期・実施方法	対象テーマ	内容	表現方法
1年次	前半・個人	自分	自分の関心事を「探究」しよう 探究の手法を体験的に学ぶ	ポスター
	後半・集団	地域	とちぎ魅力度 アッププロジェクト① 地域の課題を知り、探究的手法によって解決策を考えよう	スライド プレゼン
2年次	前半・個人	地域(日本)	日本の課題を知り、解決策を考えよう 社会課題の視野の拡張・探究的手法の成熟	ポスター
	後半・集団	地域(日本)	とちぎ魅力度 アッププロジェクト② 地域の課題について、日本全体と比較しながら魅力度を上げよう	スライド プレゼン
3年次	前半・個人/集団	自分・日本・世界	自分が社会課題にどうかかわっていくか、考えよう/将来の展望を考えよう	レポート ポスター スライド
	後半・個人/集団	自由	卒業論文を作成しよう	レポート

※ウェブセミナーの投影資料を基に編集部にて再構成。

探究のサイクルを繰り返し回しながら、興味・関心を社会へと広げ、深めていく



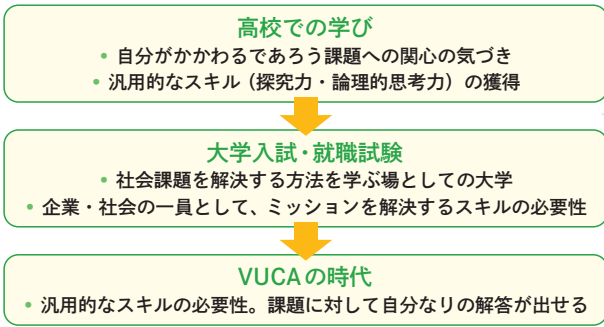
課題の設定時に生徒に留意させているのは、過去に探究のサイクルを回した時に生まれた興味や気づきを大切にして、次に探究する課題を考えてみることです。そうすることで、3年次の志望理由書の作成の場面で、「私はこのテーマに興味を持った!」と、自分の言葉で前向きに語れる生徒が増えると思います。

すくなくなった。

探究のサイクルを繰り返し回すことで、探究する課題が変わっても、前回の探究学習の経験を生徒が次の探究学習に生かしやすいくなる。また、教師も生徒の「問いの立て方」や「問題解決のプロセス」の変遷に着目することで、生徒の変化・成長を見取りやすくなる。

*1 ベネッセの教材の1つで、楽しくて分かりやすい説明ステップに沿って、生徒が探究を体験し、前向きに探究の基礎スキルを身につけることができる教材。

図3 「総合的な探究の時間」と進路の接続



※ウェブセミナーの投影資料を基に編集部にて再構成。



探究学習のねらいを 生徒と教師が共有する

探究学習と進路の接続を図るために、教師にも探究学習のねらいを丁寧に共有しています。VUCAの時代を生きる生徒に社会への関心を持たせ、課題の発見や設定を生徒自身が行うこと、そして探究のサイクルを回す中で、問題解決の手法をきちんと身につけさせること、その2点を強調しています。

生徒に意識させるのは 探究サイクル、進路、社会課題

ポスターセッションやスライドを使うプレゼンテーションの前に、生徒には必ず評価のルーブリックを提示する。そのねらいは、生徒に探究的手法と自校の教育目標を意識させることだ。1年次の前半の探究学習では、項目を絞り、分かりやすくかみ砕いたルーブリックを提示し、1年次の後半のグループ発表から2年次にかけては、より詳細なルーブリックを生徒に提示している。また、ポスターセッションやプレゼンテーション後には、生徒間での質疑応答や相互評価を行い、振り返りを深めている。特に、相互評価については、Google Forms（*2）を使うことで、事後の整理と共有が容易になったという。

同校では、探究のサイクルを回す度に、生徒は自分の探究学習を振り返り、「Classi」（*3）のポータルフォリオに蓄積していく。自分が何を考え、何ができたようになったのか、どうすればもっとよ

かったのか、次はどうしたいのかを言語化することで、次の探究のサイクルに生かすことができるからだ。また、キャリア・進路観の形成という点では、3年間の探究学習での振り返りの蓄積は、自分の変化を発見する力の醸成に、学習の成果と課題の言語化は、志望理由書を作成する力の育成につながるができる。

社会課題と進路をつなげる仕かけとして、2年次の夏季休業中に、「志望理由書の骨子」を作成させ、関心のある社会課題を踏まえて、卒業後に社会とどのようにかわりたのかを整理させている。さらに夏季休業明けにはアンケートも実施し、自分自身の興味・関心の変化や深まりを確認する機会をつくっている。その際には、希望進路も生徒に回答させることで、社会課題と進路とのつながりを意識させるようにしているという。

2年次の早い段階で、社会課題と進路について考えさせておくことで、3年次の志望理由書の作成にスムーズにつながるができる。また、2年次の後半から探究

する課題を考える機会にもなっているという。

ねらいを理解した上で、 3年間の探究学習に取り組み

2022年度、同校では多くの3年生が、国公立大学を始めとする学校推薦型・総合型選抜に挑戦している。篠原先生は出願指導の中で、成績や表彰歴といった結果だけではなく、その生徒が高校3年間で何をしてきたのか、その過程で何を考え、得たのかといった、学びのプロセスを明確に伝えることの重要性も痛感しているという。

また、生徒とは1年次の段階から「探究学習のねらい」を共有することが重要だと、篠原先生は強調する。VUCA（*4）の時代、未来の社会のあり方を見通し、そうした社会で必要とされる資質・能力を理解した上で高校3年間の探究学習に取り組めば、汎用的なスキルの獲得とキャリア・進路観の形成が促されるからだ（図3）。

*2 Google が提供するウェブ上でアンケート収集に使える「フォーム」を作成・利用するためのツール。
*3 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合弁会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。
*4 Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（あいまい性）の頭文字を取った造語。

まとめ

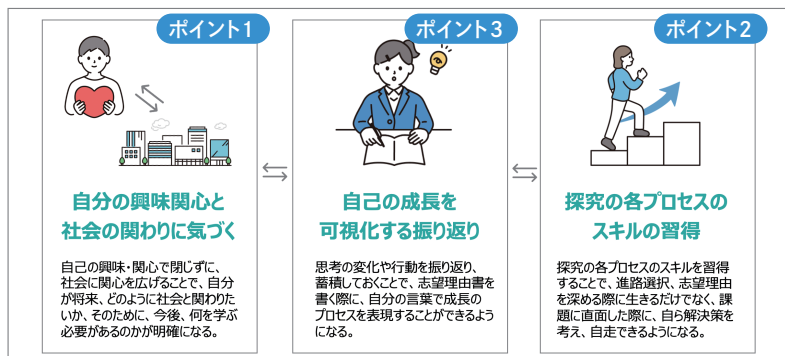
キャリア・進路観の形成と、進路を深めるための資質・能力の育成に向けて

探究学習と進路をつなぐ3つのポイント

「総合的な探究の時間」を通じて、志望理由の明確化に必要なキャリア・進路観の形成と、進路を深めるための資質・能力の育成を実現している宇都宮文星女子高校。探究の設計におけるポイントは、次の3点だ（図4）。

ポイント1 生徒のキャリア・進路観の形成にあたっては、自分の興味・関心と社会とのつながりやかわりに気づき、向き合わせるこゝとが重要だ。同校では、自分の興味・関心から探究をスタートし、徐々に自己から身の周りのことや社会へと視野を広げていくことで、自分の興味・関心が、将来や社会にどうつながるのか、今後何を学び、どのような手段で実現するのかを、生徒は理解することができている。

図4 生徒のキャリア・進路観の形成につながる授業設計のためのポイント整理



※ウェブセミナーの投影資料をそのまま掲載。

ポイント2 課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現という探究のサイクルを回す上で必要なスキルを習得することが、進

路を深める資質・能力の育成につながっている。同校では、「探究ナビ Basic」を活用し、3年間かけて探究のサイクルを繰り返し回す中で、各プロセスにおいて必要なスキルを習得している。そこで育まれた資質・能力が、進路選択や志望理由の明確化の際に生きている。もちろん、その資質・能力は、高校卒業後、様々な問題に直面した時に、その解決策を論理的に考える力にもつながるものだ。

ポイント3 生徒の成長を可視化する振り返りが確実に行われることで、生徒は、自分の思考の変化や行動を意識し、経験の中から何を考え、どう行動して今に至るのかといった学びのプロセスを、自分の言葉で言語化することができるようになる。

「総合的な探究の時間」の次年度の計画を検討する際には、宇都宮文星女子高校の3つのポイントも参考にしていきたい。

本セミナーでご紹介した、探究学習の実践に向けた中学校・高校向け探究学習補助教材「探究ナビ Basic」の詳細はこちらをご覧ください

https://bhsso.benesse.ne.jp/hs_online/info/tankyunavi/kyozai.html

『ハイスクールオンライン』トップページ > テスト&教材 > 探究ナビ Basic/ 探究ナビ > 教材について知る からアクセス

「学び続ける生徒の育成に向けて、新課程における教育実践と深化」

第6回テーマ 生徒のキャリア・進路観の形成につながる「総合的な探究の時間」とは

https://bhsso.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/article/20221208_sougotekitankyutime/index.html

宇都宮文星女子高校のご講演を始めとする、全国の学校の実践事例を紹介しています。ぜひご覧ください。



学年団を訪ねて

1年次4月からの迅速な指導改善を、 長年の学校課題の突破口に

長野県小諸高校 3 学年団



学年団が直面した課題

- ◎例年、学力が多様な生徒が入学してくる中で、学習意欲や学習習慣の面で課題のある生徒への対応が求められていた。
- ◎成績下位層の生徒へのきめ細かな指導に加え、成績中上位層の生徒を伸ばすための指導を充実させる必要があった。

学校概要

日本百名山の1つである浅間山のふもとに位置する。1995年に県内唯一の音楽科を開設。普通科と音楽科の生徒が互いに刺激し合いながら、日々の諸活動に取り組んでいる。運動系では、全国大会常連のレスリング部、陸上競技部を始めとする12団体が、文化系では、音楽科の特性を生かした吹奏楽部や音楽部などの9団体が活発に活動している。2026年度には、長野県小諸商業高校との統合が予定されており、新たな歴史を踏み出す。



設立 1906 (明治 39) 年
形態 全日制/普通科、音楽科/共学
生徒数 1学年約 160 人

2021 年度進路実績 (現役のみ) 国公立大は、北海道教育大、筑波大、千葉大、東京藝術大、信州大、愛知県立芸術大などに 10 人が合格。私立大は、國學院大、東海大、日本大、松本大などに延べ 73 人が合格。短大・専門学校進学 81 人。就職 10 人。

1年次4月から、事前学習、振り返り、事後学習の過程を定着させる

様々な希望進路の生徒が集い、それぞれの進路実現に向けて、日々切磋琢磨する長野県小諸高校。例年、新入生の学力は多様で、学習意欲や学習習慣の面で課題のある生徒への対応に、同校1学年団は苦慮してきた。2020年度の1学年主任を任された生駒圭一先生も、その状況を課題視していた。

「入学式の約2か月前には、20年度の1学年の担任が決まりました。そのタイミングで、学力や学習意欲が多様な1年生にどう対応していくかについての話し合いを、週1回程度の頻度で始めることにしました」

話し合いの中で、生駒先生は、長年の課題に取り組む上で大きな力となり得る学年団の強みを見つけたという。それは、「新しいことも恐れずにやってみよう」という情熱だ。

「前例に縛られず、いろいろなことをやってみようという意欲を学年団から感じました。このメンバーなら、思い切った取り組みも可能だと確信しました」

学年団のキーパーソンと生駒先生が考えたのが、齋藤広踏先生だ。新年度を前に、齋藤先生は積極的に他校視察に出かけ、様々な実践事例に触れていた。

「私が訪問したある学校は、スタディーサポートを軸にした指導サイクルを確立していました。本校でもスタディーサポートは、例年複数回実施していましたが、各回が単発の取り組みになっていました。高校3年間の学びはどのようなものであるべきかを生徒に理解してもらうためには、入学直後のスタディーサポートに関する指導を強化することが必要だと考えました」（齋藤先生）

齋藤先生は、1年次4月のスタディーサポートの活用について学年団で話し合いたいと生駒先生に提案。生駒先生は早速、ベネッセの学校担当者による担任対象の研修会を実施し、スタディーサポートを軸にした指導サイクルの確立について検討した。そうして構築されたのが、「事前学習→スタディーサポート受験→振り返り・事後学習」を1セットとして、その後のスタディーサポートや模擬試験につなげていく指導だ（P.34図）。

「学力が多層化している生徒集団の場合、特に低学年次は、絶対評価の模擬試験よりも、絶対評価が中心のスタディーサポートの方が指導に生かしやすいと、先生方に訴えました。そして3月には、スタディーサポートの事前課題を入学前の生徒に取り組ませ、それを4月以降に担任がチェックした上で、生徒はスタディーサポートを受験し、振り返り、事後



リーダーに聞く！

5つのQ&A

Q どのようなチームを目指しましたか？
A みんながそれぞれの考えを率直に言い合えるチームです。

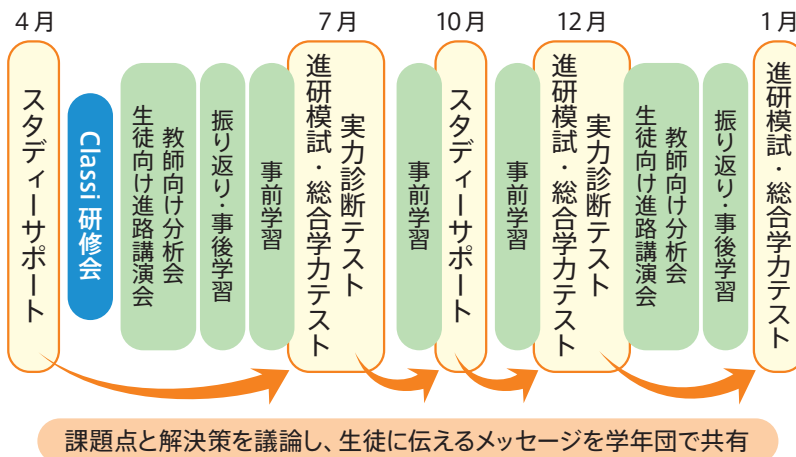
Q リーダーとして心がけていることは？
A 計画を立てる際にはまず、学年団の先生方の意見をきちんと聞くことを大切にしています。そのためにも、先を見通して、余裕を持ったスケジュールで進めることを心がけています。

Q 学年団としての「成功」は？
A 学年団が取り組んできたことが実を結んで、一人ひとりの生徒が納得できる進路に進むことです。

Q リーダーとして自覚する
長所は何ですか？
A いろいろな先生方の話を聞き、コミュニケーションを取ることができるところだと思います。会議でも、「先生はどう思いますか」と、一人ひとりに声をかけています。

Q リーダーとして自覚する
短所は何ですか？
A 多様な意見が先生方から出てきた時に、「これでいい」と決断することがやや苦手です。学年団の先生方や管理職に相談しながら決断するようにしています。

図 スタディーサポートを軸にした指導サイクルの構築（1年次）



1年次4月のスタディーサポートは、事前課題に取り組みました上で受験。結果の振り返りと事後学習を経て、次の模擬試験に臨ませた。スタディーサポートや模擬試験を単発の取り組みに終わらせないための工夫だ。
※学校資料を基に編集部で作成。

学習へと進みました。その後も、スタディーサポートや模擬試験の度に、同様のプロセスを繰り返しました」（齋藤先生）

生徒との丁寧な「コミュニケーション」で学習に向かう姿勢を育む

指導サイクルを確立した学年団は、生徒が

そのサイクルに適切できるよう、学習習慣の確立に着手した。まず行ったのが、「Classi」*（1）での課題配信だ。英語科や数学科が連携して、配信した課題を次の授業の冒頭で取り上げるなど、課題配信と授業の接続を強化した。また、生駒先生は、「Classi」での生徒とのコミュニケーションを通じて、学習の大切さを伝えることに力を入れた。

「『Classi』上での生徒の発信に教師がこまやかに反応することが、学習意欲の向上につながった事例が、担任対象の研修会で紹介されました。そこで、日々の学習状況について、生徒が『Classi』上で気軽に語れるようにしたいと考えました」（生駒先生）

学年団で学習や進路に関するアンケートを実施するとともに、担任はHRや「Classi」を通じて日々の学習の大切さを訴えたと、木村祐子先生は振り返る。

「『Classi』上で、各クラスの家庭学習時間を紹介したり、生徒に日々の学習時間を記録することを呼びかけたりするうちに、『昨日は勉強できなかつたけど、今日はできました』などと書き込む生徒が増えていきました。そうした書き込みに対して私がコメントを返すと、別の生徒が学習に関するコメントを書き込むといったやり取りを続ける中で、家庭学習時間が少しずつ改善していきました」

生徒とは真面目な話だけではなく、冗談も

交わしたと、齋藤先生はほほ笑む。

「部活動に夢中で家庭学習時間が増えないと打ち明ける生徒に、『夜中にグラウンドに穴を掘って練習できなくするよ』と、冗談のコメントを書いたところ、それを見たほかの生徒が、『自分も学習時間が増えませんか。懲らしめてください』と言ってきたこともありました。そうしたざっくばらんな雰囲気が必要なのだと思います」

さらに学年団では、指導サイクルを円滑に回すため、定期考査前に、成績不振者を対象とした特別補習も実施した。各教科担当との調整役を任せられたのが丸山雄三先生だ。

「学習スペースを校内に確保した上で、特別補習を各教科担任にお願いしました。定期考査の作問などで多忙な時期だったため心苦しかったのですが、スタディーサポートで明らかになっていた弱点分野を示しながら、『ここだけでもぜひ！』とお願いしました」

そうした1学年団の取り組みの成果は、早い段階で表れてきたと、進路指導主事の坂口俊夫先生は語る。

「スタディーサポート2年生第1回では、GTZ（*2）のDゾーンの生徒が減少し、Bゾーン以上の生徒が増加するなど、例年とは異なる結果が出ました。日々の学習に粘り強く取り組む生徒が増えたと感じています」

* 1 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。
* 2 ベネッセのアセスメントにおける共通の学力評価指標、「学習到達ゾーン」のこと。「S1」～「D3」の15段階で評価される。



学年団を訪ねて



丸山 雄三 まるやま・ゆうぞう
3 学年担任
教職歴 7 年。同校に赴任して 5 年目。
地理歴史・公民科。



木村 祐子 きむら・ゆうこ
3 学年担任
教職歴 8 年。同校に赴任して 4 年目。
英語科。



依田 潤子 よだ・じゅんこ
3 学年担任
教職歴 14 年。同校に赴任して 9 年目。
音楽科。



齋藤 広踏 さいとう・ひろふみ
3 学年担任
教職歴 13 年。同校に赴任して 9 年目。
情報科。



坂口 俊夫 さかぐち・としお
進路指導主事
教職歴 35 年。同校に赴任して 9 年目。
地理歴史・公民科。



生駒 圭一 いこま・けいいち
3 学年主任
教職歴 38 年。同校に赴任して 8 年目。
数学科。

学科や教科、さらに学年を超えて、 学校全体の取り組みに昇華

学力向上の取り組みは、音楽科の生徒にも及んでいると、クラス担任の依田潤子先生は語る。

「音楽科には、難関国立大学を目指すレベルの学力を持つ生徒から、音楽以外は全く興味が持てない生徒までおり、普通科の生徒以上に学力が多様です。学力が向上すれば進路の選択肢は増えますから、やればもっとできる生徒を伸ばしたいと、以前から思っていました。そこで、生駒先生に相談した上で、学年会で『成績中上位層を伸ばす授業をお願いします』と、先生方に訴えました」

成績下位層の生徒が取り残されるのではないかと他の教師の不安を、依田先生は、「成績不振者の補習は、私がやります」と払いのけた。音楽科の生徒に対する授業の変化、そして依田先生のサポートは、明らかに生徒を変えた、木村先生は説明する。

「依田先生の思いを受け止めて、私も中上位層向けの授業を行っています。英語が得意ではない生徒も、一生懸命授業に取り組んでいます。授業後に質問に来る生徒の多くが音楽科ですし、『GTEC』でも、音楽科の生徒がいつも上位に入っています」

学年団の様々な取り組みは、ほかの学年団にも波及していると坂口先生は語る。

「生駒先生たちが始めたスターディーサポートを軸にした指導は、現1・2学年にも引き継がれました。取り組みを学校全体のものに昇華する段階に来ているのだと思います」

生駒学年である3学年の生徒たちは今、それぞれの進路選択の岐路を迎えている。

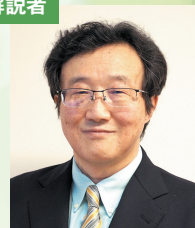
「生徒全員が、やるだけのことはやっとなり得して卒業できるように、学年団が丸となって、最後までできる限りの支援をしています」(生駒先生)

* 学年団 輝きのポイント *

- * 単発の取り組みになっていた各アセスメントを、事前学習と振り返り・事後学習でつなぎ、3年間の指導サイクルを構築した。
- * 特別補習や成績中上位層を伸ばす授業の必要性を訴える教師の情熱が、他の教師を動かした。

校則に関するトラブる

解説者



日本女子大学
教職教育開発センター
教授 坂田 仰

大阪府の公立高校に勤務後、東
京大学大学院法学政治学研究科
公法専攻博士課程単位取得退
学。1996年、日本女子大学に
赴任。専門は、憲法学、公教育
制度論。2021年9月に『新訂
第4版 図解・表解教育法規』（共
著、教育開発研究所）を出版。

学校で起こり得る危機に対し、どのような備えをしておくべきか。事故や災害などが発生したら、被害を最小限にとどめるためにどう対応すればいいのか。学校の危機管理について研究する坂田仰教授が解説する本コーナー。第12回は、校則に関するトラブるについて解説する。

12年ぶりに「生徒指導提要」を改訂。生徒主体の生徒指導が明示される

生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書である「生徒指導提要」が、2022年12月、12年ぶりに改訂されました。22年6月に「子ども基本法」が成立し、子どもの権利擁護や子どもが意見を表明する機会の確保等が法律上位置づけられたことに加え、いじめの重大事案やインターネットにかかわる問題、性的マインオリティーなど、生徒指導の課題が多様化・複雑化していることを受けての見直しです。

改訂によって、生徒指導は、生徒主体であることが明確に示されました。すなわち、「児童の権利に関する条約」や「子ども基本法」の趣旨を踏まえ、生徒指導は、「児童生徒が、

社会の中で自分らしく生きることができるよう存
在へと、自発的・主体的に成長や発達する過
程を支える教育活動」と定義されたのです。
ただ、生徒指導を行う際の基本姿勢に変わり
はありません。生徒指導は学校だけで行うも
のではなく、家庭や地域、専門機関などと協
力的ながら、社会全体で生徒の成長・発達を
包括的に支援していく必要があります。

生徒・教師・保護者が話し合い、校則の趣旨の共通理解と合意形成を図る

今回の「生徒指導提要」の改訂で見直され
た対象の1つに、校則があります。校則の意
義や位置づけは、次のように示されました。

◎児童生徒が遵守すべき学習上、生活上の

生徒のよりよい成長を支える校則の実現に向けて

- ✓ 校則を見直すプロセスに、生徒が主体的に参画することができるようにする。
- ✓ 学校関係者で校則の意義や根拠の共通理解を図りつつ、学校の教育目標に照らして校則を定める。
- ✓ 校則の制定後も、学校や社会の変化などを踏まえて、現状に合う内容か検証し、見直す。
- ✓ 校則に違反した場合は、生徒個々の事情や状況を把握しつつ、生徒に内省を促すような指導を行う。

図 校則を見直す視点と、見直しのプロセス(例)

校則を見直す視点

- 学校や地域の状況、社会の変化等を踏まえて、その意義を適切に説明できるか
- 学校の教育目標に照らして適切な内容か
- 現状に合う内容に変更する必要はないか
- 本当に必要なものか
- 不要に行動が制限されるなど、マイナスの影響を受ける生徒がいないか

見直しのプロセス(例)

- 1 生徒会や学級会で生徒同士で議論したり、アンケートなどで意見を聴取したりして、見直したい校則を洗い出す
- 2 生徒の議論を踏まえ、教師間で議論(根拠も含めて、校則の意義を説明できるようにする)
- 3 生徒・教師で校則の原案を作成・検討
- 4 保護会などで、保護者の意見を聴取(適宜、学校評議会や地域の意見も聴取)
- 5 生徒・学校・保護者の意見をすり合わせ、校則を制定(最終的には校長が制定)
- 6 制定した校則を、その根拠とともに、学校のウェブサイトなどで公開

※文部科学省「生徒指導提要(改訂版)」、坂田教授の取材を基に編集部で作成。

規律。

◎児童生徒が健全な学校生活を送り、よりよく成長・発達していくために設けられるもの。

◎各学校が教育基本法等に沿って教育目標を実現していく過程において、児童生徒の発達段階や学校・地域の状況、時代の変化等を踏まえて、最終的には校長により制定されるもの。

◎学校教育において社会規範の遵守について適切な指導を行うことは重要であり、学校の教育目標に照らして定められる校則は、教育的意義を有する。

制定や見直しの手続きに関する要件も例示されました(図)。校則のあり方は法令上の規定がなく、制定の権限は校長にあります。制定や見直しにあたっては、生徒会や保護者会などで校則について確認・議論する機会を設け、生徒や保護者など、学校関係者の意見を聞くことが望ましいとしています。特に生徒の参画は、校則の意義を理解し、自ら守ろうとする意識の醸成につながることで重視されています。もちろん教師間でも話し合い、何のための校則か、根拠を含めて説明できるようにしておきましょう。そして、少数派の意見も尊重しつつ、生徒の能力や自主性を伸ばすものとなるよう配慮して制定します。

校則の運用にも言及しています。制定後は、制定の根拠とともに、学校のウェブサイトなどで公開し、生徒や保護者、地域などの学校関係者が参照できるようにしましょう。一定期間が過ぎたら、現状に即したのか、検証・見直しを図ることも重要です。

校則違反があった際には、違反に至った背景など、生徒個々の事情や状況を把握し、生徒に内省を促す指導を行います。そうした指

導は既に実践されていると思いますが、校則の遵守のみを生徒に求めていないか、改めて教師間で意識を共有するとよいでしょう。

教育目標や学校の実情に照らして、校長が最終判断する場合も

生徒主体で校則を見直すことは、生徒にとって身近な問題を自ら解決するといった教育的意義があるのは確かです。保護者や地域の参画も、社会全体で生徒の成長を支援するという「生徒指導提要」の趣旨に合致しています。ただ、危機管理の視点で考えると、生徒も保護者も価値観が多様化している中、資質・能力や成熟度などが様々な生徒の話し合いによって、誰もが納得する意見の一致が見られ、学校のルールを確立できるのかといった点には疑問が残ります。

校則は、生徒指導の方針・基準を生徒に示すものです。「生徒指導提要」には、校則は最終的には校長によって制定されるものとあり、最高裁判所の校則に関する判例でも、教育目標の実現の観点から、校長が最終決定することを支持しています。学校の実情に合わせて、場合によっては生徒の主張にそぐわないことでも、校長が校則を制定しなければならぬ場合があるのではないかと考えます。

生徒の学びや進路選択、その後の人生に影響を与えるような革新的な技術や価値観を「社会のトレンド」として解説します。

ウェルビーイング

体と心と社会の「良好な状態」がウェルビーイング

今、日本で「ウェルビーイング」という概念が広がりつつあります。この言葉は、1946年に採択された世界保健機関（WHO）の憲章で使われたことがきっかけとなって広まりました。ここでは、「身体的、精神的、社会的にウェルビーイングな状態が広義の健康である」と定義されました。ウェルビーイングは「満たされた状態」と訳されることもありますが、私は「良好な状態」と訳しており、体（狭義の健康）と心（幸せ）と社会（福祉）の「良好な状態」が、広い意味での「健康」と言えます（図）。

日本では、欧米などに比べて、ウェルビーイングの概念はあまり普及していませんでした。最近になって注目されている背景には、学問的な理由と社会的な理由があります。学問的な理由としては、1980年代以降、ウェルビーイングに関する研究が進み、幸せな人は寿命が長い上に、生産性や創造性なども高いことが明らかになったことが挙げられます。日本は、「失われた30年」と言われるほど、経済が停滞しています。その要因には社会の制度疲労などがありますが、ウェルビーイングの低さも関係していると考えられています。

社会的な理由としては、日本人の価値観が大きく変化したことが挙げられます。お金や地位といった「地位財」よりも、幸せや健康などの「非地位財」を求める傾向が強まる中で、心の豊かさを重視するようになったことが、ウェルビーイングという概念への共感につながっているのでしょうか。

図 ウェルビーイングとは何か



※前野隆司・前野マドカ『ウェルビーイング』（日本経済新聞出版）を基に編集部で作成。

解説者



慶應義塾大学大学院
システムデザイン・マネジメント研究科 教授
前野隆司 まえの・たかし

専門はウェルビーイング、イノベーション、システムデザイン。キャノン株式会社に勤務後、ハーバード大学客員教授などを経て、現職。

ウェルビーイングが大切なのは、個人の生活や人生を豊かで幸せなものにするからだけではありません。世界は今、環境問題や経済格差、戦争、パンデミックといった様々な課題に直面しています。それらの課題に国際社会が協働して取り組むためには、世界中のすべての人のウェルビーイングを実現するという意識を、人類が共有することが必要です。その意味で、今後ウェルビーイングは社会の中心的な概念になっていくと、私は考えています。

幸せに関する知識を持ち、前向きに行動する

世界各国の幸福度を比較調査した研究は複数ありますが、いずれも、日本は中位～下位に位置しており、ウェルビーイングが上昇する余地は大きいと言えます。日本人のウェルビーイングが相対的に低い要因は、日本を含む東アジア諸国は集団主義の志向が強く、個人の幸せを追求しづらいなど、文化的・歴史的な背景があると思われます。

ウェルビーイングを高める方法については、世界中で様々な研究が行われています。私の研究では、「前向きにチャレンジをする」「たくさん感謝をする」「失敗や不安を引きずらない」「他人と比較しない」といった意識を持って日々を過ごすことで、幸福度が高まることが分かっています。

幸せは、受動的な姿勢では得られません。健康であるためには「健康に気をつける」のと同様に、幸せになるためには幸せに関する知識を持ち、「幸せに気をつける」ことが大切です。そうした知識を教育活動にも生かすことで、生徒や教師のウェルビーイングが高まり、創造的な教育が実現することが期待できます。

一人ひとりのウェルビーイングが尊重される社会では、誰もが自分らしく生きられたり、やりがいを感じながら働けたり、家族や地域などのコミュニティの中でつながりを感じられたりすることから、人々は幸せを感じやすいと考えられます。そうした社会を実現しようとする人々の意識や行動は、世界の様々な問題を解決する力になるのではないのでしょうか。

VIEWnext ONLINEでは、トレンド・ワードについて、誌面でお伝えし切れなかった内容を「学ぶ・働く・暮らす」の切り口で解説しています。右記の2次元コードからアクセスし、ご覧ください。



For Teacher Section

教師個々の教科指導・進路指導に役立つ事例や情報を、先生方の思いを乗せてお届けする

P.40

お勧めの分掌 ▶

教務担当

担任

発問・課題設定をキーに見る

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

教科の見方・考え方を働かせる
問いや課題を通じて学びが深まる授業に迫る

国語 群馬県立桐生高校 佐藤真紀子

P.40

生徒の関心が高い題材の素材文を使って、文化比較の視点から読解力の向上を図る

数学 福井県立美方高校 西 繁寿

P.44

生徒から生まれた疑問をキー課題に、連続性のある授業を展開

P.48

お勧めの分掌 ▶

進路担当

学年団

担任

マイ・ストーリーを語る
生徒を育む進路指導

これまでの自分と将来の自分を、
大学での学びと結びつけて語る生徒を育む

2年次 推薦型選抜の準備
千葉県・私立日出学園中学校・高校

支援開始を早期化。1対1で「なぜ」と
繰り返し問い、希望進路を明確化

P.50

お勧めの分掌 ▶

進路担当

学年団

担任

変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走
クローズアップ! 就職指導

社会や企業が変化する中、
就職活動を頑張る生徒をどう支援するか

資質・能力の視点からの自己理解
1・2年次

「社会」と「自分」を知り、つなげる
広島県・広島市立広島工業高校

P.52

お勧めの分掌 ▶

学年団



新課程初年度でも迷わない! 各月の指導のポイントをリストアップ

3月のポイント

第2学年に向けた準備・計画と、
次年度の第1学年への引き継ぎ

9:55 漢文の速読



授業冒頭の5分間、生徒は市販の教材で漢文の問題に取り組む。各自で答え合わせを行った。速く正確に読むスキルの習得や、句法の確認・定着に加えて、多くの作品に触れ、古典の魅力を感じられるようにすることをねらいとして、毎時間行っている。

本時のキー課題

10:20 中国と日本の鬼・幽霊の特徴を議論



各グループは、中国と日本の鬼・幽霊の共通点や相違点を出し合いながら、縦軸を「現世への未練」「狂気」「勝敗」などと設定していった。「素材文の中の訳せない箇所については、教え合っ」と佐藤先生。生徒は、グループ内で単語や文法などを教え合いながら、読解を進めていった。

本時の概要

〔対象／教科／科目〕2年生／国語／古典B
〔分野・単元〕漢文・小説／古文・近世の文章（全3時間のうち2時間目。P.43に単元の指導計画を掲載）
〔育成を目指す資質・能力〕知識、思考力、主体性、協働性
〔学習内容〕上田秋成『雨月物語』の解説動画を視聴した後、中国と日本の鬼・幽霊の特徴をグループで議論しながら、前時に読解した『夜行逢鬼』『新死鬼』と『雨月物語』の登場人物を4象限のマトリクスにプロットした。それを踏まえて、鬼・幽霊の認識がどう変容したかを、個人でレポートにまとめた。

- 主 主体的な学び
- 対 対話的な学び
- 深 深い学び

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

国語

生徒の関心が高い題材の素材文を使って、文化比較の視点から読解力の向上を図る

群馬県立桐生高校 佐藤真紀子

さとう・まきこ 教職歴12年。同校に赴任して2年目。資質・能力育成部。国語科主任。2022年度からICEモデルを取り入れた授業を実践。

学校概要

◎2021年度、群馬県立桐生高校と同桐生女子高校が統合して開校。「ONE TEAM」を合言葉に、生徒・教師が一丸となり、新しい学校づくりを進めている。校訓は、「獨立自尊、自主自律、向学共励」。文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」の指定校（第4期）で、全校生徒を対象にSSHのプログラムを実施。

◎設立 2021（令和3）年

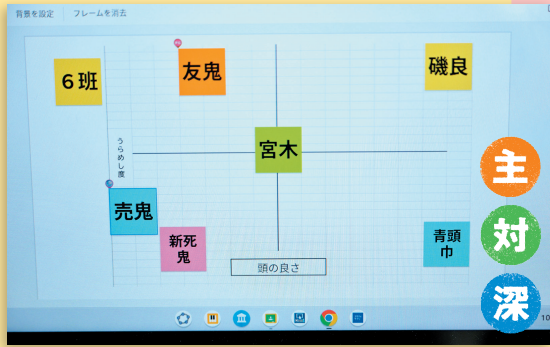
◎形態 全日制・通信制／普通科・理数科／共学

◎生徒数 1学年約320人（全日制）

◎2022年度入試合格実績（現浪計） 国公立大は、東北大、筑波大、群馬大、埼玉大、電気通信大、東京外国語大、横浜国立大、新潟大、金沢大、信州大、大阪大、高崎経済大、前橋工科大などに157人が合格。私立大は、青山学院大、学習院大、慶應義塾大、中央大、東京理科大、法政大、明治大、立教大などに延べ723人が合格。



10:13 素材文の登場人物を4象限で整理



生徒は4～6人ずつでグループを組み、3つの物語の登場人物を、端末の4象限のマトリクスに整理。横軸は全グループ共通の「うらめし度」、縦軸は各グループで話し合っ設定した。生徒は「会えないから恨めしい?」「磯良は、復讐しないよね?」などと考えを出し合った。(©Google)

10:00 『雨月物語』の動画を視聴



佐藤先生は、本時で使用するレポート用紙と自己評価のルーブリックを生徒に配布後、本時の課題が、前時に読解した『夜行逢鬼』『新死鬼』を踏まえて、中国と日本の鬼・幽霊を比較することであると説明。日本の鬼・幽霊を理解するため、生徒は『雨月物語』の解説動画を視聴した。

10:40 本時のまとめ



佐藤先生は、「自分の考える鬼と違う点はありませんか」「『雨月物語』では、宮木の生前の話から始まりましたが、漢文では、鬼たちが死んだ理由は書かれていません。そうした違いにも着目しましょう」と投げかけた。授業終了後もレポートを熱心に書き続ける生徒もいた。

10:35 鬼・幽霊についての自己認識を考察



グループでの議論を踏まえ、鬼・幽霊についての自身の認識がどのように変化したかを考察し、レポートにまとめた。ある生徒は、中国と日本における鬼・幽霊の捉え方の違いに加えて、自然災害と鬼の関連性など、社会的な背景にまで視野を広げて考えをまとめていた。

●私が目指す授業
**素材文への関心を高めてから、
 文法や句法の習得に進む**

古典の授業は、教師が文法や句法を説明し、素材文を段落ごとに読み解いていく講義型が一般的です。私もかつてはそうした授業スタイルでした。しかし、文法や句法の説明が中心の授業では、素材文の面白さを感じる前に、古典に苦手意識を持ってしまう生徒が一定数いるといった課題がありました。

そこで前任校では、文法や句法の知識をある程度学んだ2年生を担当した際、予習を不要とし、授業の最初に、生徒同士で相談しながら素材文を読解する時間を設けることにしました。すると、初見の素材文でも、生徒は文法や内容について分からない点を教え合いながら読み進めたのです。また、生徒同士が教え合っていた内容を聞く、文法においても読解においても、生徒は私が想定をしていなかったつまづきをしていることが分かりました。そこで、生徒が教え合う中であぶり出されるつまづきを確認した上で、私が解説をすると、授業を効率的に進められ

るようになりまし

そのようにして授業改善を繰り返すうちに、単元の冒頭に生徒同士で素材文を読んで大意を把握することを通じて、素材文への興味・関心を高めた上で読解を深めていき、最後に文法や句法の解説を行う、現在の単元構成に至りました。

●私の発問・課題設定の観点

「古典探究」を見据え、課題に文化比較の視点を取り入れる

本単元では、「古典探究」の要素を取り入れて文化比較を行おうと考え、中国と日本の鬼・幽霊について考察する課題を設けました。素材文は、教科書の『夜行逢鬼』に加え、中国の鬼・幽霊について理解を深めるための『新死鬼』と、日本の鬼・幽霊について理解するための『雨月物語』を取り上げました。

鬼はアニメなどによく登場するため、生徒は興味があり、よく知っている概念です。古典に親しむための格好の題材になると考えました。ただ、鬼の性格は、日本と中国で大きな違いがあります。日本の鬼は、人を呪い殺すような怖い存在ですが、中国の鬼は、人間にいたずらをして

人間から懲らしめられる存在です。

小説の展開にも、日本と中国で違いがあります。日本の小説では、物語の因果関係が重視され、納得感のある結末であることが一般的ですが、中国の小説は、『夜行逢鬼』のように、最後に鬼が羊になるなど、脈絡のないような話が少なくありません。それらの特徴を踏まえ、生徒が日本と外国の文化の共通点や相違点を考えられる授業にしよう、単元計画を練りました。

本時では、中国と日本の鬼・幽霊の違いを明確にできるよう、4象限のマトリクスを活用しました。横軸は、最も違いが出そうな「うらめし度」を全グループ共通とし、縦軸は、各グループで設定することにしました。

中国と日本の鬼・幽霊の違いを明確に説明できるような縦軸とするためには、物語の内容や登場人物の位置づけを十分理解する必要があります。例えば、あるグループが設定した「現世への未練」は、幽霊になった経緯を重視する『雨月物語』と、生前については一切言及しない漢文の小説の違いを踏まえた、登場人物の配置が可能な適切な指標だと思えます。一方、「鬼の頭のよさ」と設定したグループは、『夜行逢鬼』『新死鬼』

の内容を中心に考えてしまったのでしよう。人間にだまされる間抜けな幽霊もいることに引つ張られて、『雨月物語』の幽霊の位置づけが難しい軸になっていました。

自己評価で到達度を見取り、授業改善に生かす

縦軸の設定は、物語の核心に触れるものです。次時では、各グループが軸として設定したものと、それを設定した理由を発表し、軸として設定したものが適切であったかを、私がフィードバックします。そして、生徒の読解が不十分だった箇所については、文法や句法の指導を織り交ぜながら解説します。生徒が、素材文を正しく読解するためには、文法や句法の知識が必要だと理解してくれることを期待しています。

また、次時では、生徒が自身の成長を認識できるよう、ICEルーブリック(図・*1)で自己評価します。教師も、同じルーブリックで生徒一人ひとり評価し、生徒の自己評価が「C」でも、教師が見たら「I」といったように、自己評価の妥当性についてフィードバックします。例えば、思考力の「C」では「根拠」

図 自己評価のICEルーブリック

	評価材料	I (考え・基礎)	C (つながり・活用)	E (応用・ひろがり)
知識・技能	定期考査	【使役・禁止】などの句法に気づき、適切に訳すことができた。	【強い否定・疑問】の句法に気づき、訓読や文脈から適切に訳すことができた。	【置き字】に気づき、文脈から適切に書き下すことができ、他の用法との違いを整理できた。
思考力	レポート	各文章に登場した鬼(幽霊)を比較できた。	比較の際に、本文に根拠を求めることができた。	読んだ文章以外からも怪異小説などに登場する鬼(幽霊)を比較できた。
主体性	4象限のマトリクス	縦軸と横軸の項目立てを意識して本文を読むことができた。	複数の本文を縦軸項目を立てることを意識して読んだり、分析したりすることができた。	複数の本文を読んだり、分析したりしたことを、他の作品でもあてはまるものがないかを考えた。

※学校資料を基に編集部で作成。

が求められますが、生徒が根拠だと思っていることが、根拠になっていない場合があります。あらゆる読解に求められる根拠を、古典でも意識させたいと考えています。

ルーブリックは、授業改善にも活用しています。特に古典では、知識・技能の習得でつまづく生徒が多いため、自己評価を継続的に行い、知識・技能に関する自己評価の変容を踏まえて、授業の改善点を探っています。

*1 ICEモデル・ICEルーブリックは、スー・F.ヤング博士とロバート・J.ウィルソンによって日本に紹介された学習・評価方法。I・C・Eは、Ideas (基礎的知識)、Connections (つながり)、Extensions (応用) で、それぞれ学びの段階(フェーズ)であり、そのフェーズ構成が「人の成長を促すフレームワーク」として機能する。

生徒の意欲を高める学習評価を目指す

教務主任(国語科) 七原 登 先生



本校では、単に点数をつけるだけでなく、「生徒の学習意欲につながる評価」を目指し、学習評価のあり方について模索しています。本校の生徒には、教師からの叱咤激励に奮起するというよりも、褒められることでやってみようという意欲が湧く傾向があります。そこで国語科では、2022年度の1学年において、学習内容のまとめや気づきを「Classi」(*2)を入力する、振り返りの場を設けています。教科担当者や担任は、生徒一人ひとりの振り返りを読み、生徒が前向きになるよう、励ましやアドバイスの言葉を返しています。また、ワードクラウド(*3)を使って、振り返りの中で多く出てきた言葉を抽出することにより、成果や課題を把握して授業改善に生かす試みも始めました。

生徒が自分の考えや疑問を100字でまとめる「100字コメント」を、「主体的に学習に取り組む態度」の評価材料にするクラスもあります。その取り組みでも、担任が生徒に丁寧にフィードバックをしており、模擬試験の成績が他クラスよりも伸びていました。生徒の思考を教師が受け止めることが、生徒を伸ばす学習評価になると改めて感じています。

今の授業スタイルに改めてから、生徒は素材文の読解には文法や句法の知識が必要であることを実感し、意欲的に学ぶようになりました。今後の課題は、生徒が精読にしっかりとついてこられるようにすることです。グループの学び合いによって理解は深まったものの、独力で読解することができる力はまだ身につけていない生徒もいます。そうした生徒

●成果と展望
グループワークで身につけた力を、
独力で活用できるように

VIEWnext ONLINEでは、本時の授業の様子をダイジェスト動画で紹介!



VIEWnext ONLINE 検索



が意欲・関心を持って学び続けられるようにサポートすることで、全体の底上げを図りたいと考えています。

単元の指導計画

【教科・科目】国語・古典B 【分野・単元】漢文・小説/古文・近世の文章 【テーマ・作品】『夜行逢鬼』『新死鬼』『雨月物語』
【設定時数】全3時間(本時は2時間目) 【単元目標】中国文化と日本文化の関係について理解を深める。

時数	学習内容	身につけさせたい 資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	『夜行逢鬼』『新死鬼』の読解	<ul style="list-style-type: none"> 粘り強く、素材文を読み解くことができる。 【思考力、主体性】	<ol style="list-style-type: none"> 『夜行逢鬼』『新死鬼』を読解し、漢文の小説における「鬼」について理解する。 4象限のマトリクスを示し、次時に取り組む素材文を読み比べる課題について、教師が説明する。 	【主体的な学び】 4象限の縦軸となる項目を見つけられるようにし、学習の見通しを持たせる。 【対話的な学び】 読解した内容を互いに伝え合う場を設ける。 【深い学び】 4象限の縦軸となる項目を決めるよう、各グループに意識させる。	
2	<ul style="list-style-type: none"> 中国と日本の鬼・幽霊の共通点・相違点を議論 	<ul style="list-style-type: none"> 互いに意見を出し合ったり、相手の意見を尊重したりすることができる。 自分の考えの変化を言語化することができる。 【知識、思考力、主体性、協働性】	<ol style="list-style-type: none"> 4象限のマトリクスを示し、素材文を読み比べる課題について、教師が説明する。 『雨月物語』について解説した動画(NHK for school)を、生徒が視聴する。 生徒はグループを組み、前時に読解した『夜行逢鬼』『新死鬼』と、『雨月物語』の内容を踏まえ、中国と日本の鬼・幽霊の共通点や相違点について考察する。 生徒は個人で、鬼・幽霊に対する自身の認識の変容をレポートにまとめる。 	【主体的な学び】 4象限の縦軸の項目をどのように決めたのか、理由を言語化させる。 【対話的な学び】 読解した内容を互いに伝え合う場を設ける。 【深い学び】 中国と日本の文化の違いに着目できるようにし、鬼・幽霊に対する自身の認識の変容を意識させる。	<ul style="list-style-type: none"> 4象限の縦軸の作成 レポート
3	<ul style="list-style-type: none"> 中国の小説と日本の小説との違いについて考察 重要句法の確認 	<ul style="list-style-type: none"> 互いの意見を踏まえて、素材文の読解を深めることができる。 句法を正しく身につけることができる。 【知識、主体性】	<ol style="list-style-type: none"> 前時に作成した4象限のマトリクスやレポートを、クラス全体で共有。生徒は、自分の認識と他者の認識とを比較して、『夜行逢鬼』『新死鬼』『雨月物語』の読解を深める。 重要句法等を確認する。 ルーブリックを用いて自己評価を行う。 	【主体的な学び】 ルーブリックを見ながら自己評価を行い、自身の認識の変容をメタ認知させる。	<ul style="list-style-type: none"> 記述演習 自己評価

※佐藤先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。

*2 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社であるClassi株式会社が提供する、学校教育でのICT活用を総合的に支援するサービス。
*3 テキストデータを視覚化するための方法で、テキスト内に頻出している単語ほど大きく表示される。無料で利用できるツールもある。

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

数学

生徒から生まれた疑問をキー課題に、
連続性のある授業を展開

福井県立美^み方^{かた}高校 西^し繁^げ寿^{ひさ}

11:40 前時に上がった疑問について確認



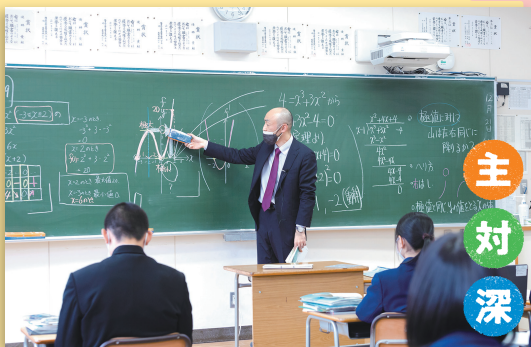
本時のテーマは、前時の授業で生徒から上がった「3次関数のグラフの極大値を頂点とした山は、左右同じ傾きで降りているか」という疑問を解消することで、西先生が説明するとともに、その疑問について考えるための練習問題の解答を、代表の生徒が板書した。

本時の概要

〔対象／教科／科目〕 2年生／数学／数学Ⅱ
 〔分野・単元〕 微分法と積分法／微分法（全13時間のうちの7時間目。P.47に単元の指導計画を掲載）
 〔育成を目指す資質・能力〕 知識・技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性
 〔学習内容〕 増減表を作成してグラフの概形をイメージした前時の学習を受け、3次関数のグラフの対称性について考察を深めた。

本時のキー課題

12:10 3次関数のグラフの対称性へと導く



次に西先生は、 $x=0$ から右の部分のグラフがどのような形かを確認した上で、 $x=2$ の時の y の値が極大値 ($y=4$) よりも大きいかどうか問いかけた。そして、対称性についての考察を深める手がかりとして、因数定理を使って3次方程式 $x^3+3x^2-4=0$ を解くことを提案した。

主 主体的な学び
 対 対話的な学び
 深 深い学び

にし・しげひさ 教職歴30年。同校に赴任して3年目。数学科。2学年主任。学習内容を土台に、「想像力を働かせて仮説・予想を立てる力」「対話的な学びを通して理解を広げ、深め、創造的に思考する力」の育成を目指す。その実現のために、「目標設定と振り返り」「生徒の見取り」「生徒の対話」を重視した授業実践に注力している。

学校概要

- ◎「明・強・清」が校訓。地元の3中学校で、普通科連携クラスへの進学を希望する生徒を選考し、中学3年次に「連携クラス」を編成。週1回、同校の教師が、各中学校の数学、英語の授業に入り、中学校の教師とチーム・ティーチングを行っている。
- ◎設立 1969（昭和44）年
- ◎形態 全日制／普通科、生活情報科、食物科／共学
- ◎生徒数 1学年約140人
- ◎2021年度進路実績（現役のみ） 国公立大は、筑波大、福井大、大阪教育大などに20人が合格。私立大は、佛教大、立命館大などに延べ64人が合格。短大・専門学校進学45人。就職・公務員27人。



11:50 前時に上がった疑問について考察

主
対
深

練習問題のグラフを基に、改めて「極大値を頂点とした山は、左右同じ傾きで降りているか」を問い、席が隣の生徒同士で話し合わせた後、さらに、 $x=-2$ から $x=0$ の間で、グラフの傾きがどう変化しているか、その理由とともに生徒に問いかけ、話し合わせた。

11:45 問われている内容を確認

主
対

生徒が解答を板書したのは、3次関数 $y=x^3+3x^2(-3 \leq x \leq 2)$ の最大値と最小値を求める問題。西先生は、導関数 $f'(x)=3x^2+6x$ のグラフと増減表、3次関数 $y=x^3+3x^2$ のグラフをかいているかどうかを生徒たちに確認しながら、解答について解説した。

12:20 授業後の主体的な学び

主
対
深

授業が終わった後も、生徒たちはグループで、あるいは個人で練習問題に取り組む様子が見られた。西先生の授業が連続性のあるものだとして認識しているため、理解をあいまいなままにしない習慣が生徒に身につけていることがうかがえた。

12:15 練習問題を通じた振り返り

主
対
深

さらに西先生は、3次方程式を解かなくても、3次関数のグラフが変曲点に関して点対称であることに着目すれば、 $y=4$ となる x の値が求められることを説明。生徒が、3次の係数が負の3次関数の最大値と最小値を求める問題に取り組み始めたところで授業は終了。

● 私が目指す授業

初めて見る問題でも

思考し続けられる力を育む授業

「解いたことがある問題は解けるけれど、初めて見る問題だと、ピタッと思考が停止してしまうことがあります」。教壇に立つようになってそれほど月日が経っていないある時、1人の生徒が私にそう言いました。模擬試験では優秀な成績を収めるのに、なぜそんなことを……。その時から私は、自分の授業を通じて、生徒はどこでつまづくのか、そのつまづきをどうすれば乗り越えられ、生徒に数学的な見方・考え方が身につくのかを追究するようになりました。

「解答・解説を読んだら分かった」と言う生徒の言葉は、本人に自力で答えにたどり着く可能性があったことを示唆するものです。しかし、現実にはそうはならなかった。生徒のつまづきを研究する中で私は、問題を正確に把握する力の育成が1つの鍵になるのではないかと考えるようになりました。他者と対話し、問われていることを自分とは違った視点からも把握する。そして、他者とともに、複数の計画を立て、時に混乱

を経験しながら、目の前の問題に対するベストの解決策を模索するような授業を目指しています。

数学では、解法が複数あることも多いですから、生徒が選択しなかった解法を使って問題を解かせる経験も重要です。そのため、「ほかに解法はないだろうか」と、生徒自身の中から次の課題が生まれるような授業にすることを心がけています。生徒は探究的な学びを積み重ねる中で、「初めての問題」でも思考し続けられるようになります。

また、単元を問わず、共通の数学の学び方を、生徒と丁寧に確認することも大切に行っています。年度最初の授業では、学習方法と記憶の関係、予習・復習の取り組みなどを説明し、自分の学び方を常に検証しながら、1年間の学習に取り組みむことの大切さを伝えています(図)。

●私の発問・課題設定の観点
生徒の問いを起点に、
次の授業を展開する

本時のキー課題は、「極値を持つ3次関数のグラフに対称性はあるかどうかの検証」です。「極値を持つ3次関数のグラフに対称性はあるか」と

いう問いは、前時の授業中に生徒から上がったものです。増減表を作成してグラフをかかせていると、1人の生徒が、「山は左右同じ傾きでかいてよいのですか」と質問したため、それを本時のテーマとして、教科書の練習問題を使って考えてみることにしました。本時はまず、前時の授業で質問した生徒が練習問題の解答を板書してから、授業を開始しました。そのように、前時の授業中に生まれた生徒の疑問をキー課題として授業を展開することが多いです。

生徒も、授業中に次の授業につながる問いが生まれることをよく理解していますから、特に授業の最後に出す問題には集中して取り組みます。本時の終了後も、最後に出した問題について話し合うグループが複数見られました。生徒たちにとって、数学の授業の振り返りは、単に何が分かったかを確認することにとどまらず、次の授業で何を学ぶことになるのかを考えるものでもあるのです。

なお、本時で生徒が取り組んだのは、3次の係数が正の3次関数の最大値と最小値を求める問題でしたが、 x がどの値の時に最大値を取るのかについても、3次関数のグラフの対称性を知っていれば、定義域の端の

年度初めの授業で示す「数学への取り組み方」(抜粋)

■ノートは3冊作る
①授業用 ②復習問題集用 ③テスト直し用 (可能であれば、④入試準備問題演習用)

■2022年4月～23年3月進度予定

月	主な模擬試験	テスト	範囲	時数の目安	入試準備演習の範囲
4月	県連模試	スタディーサポート	式と証明(数学Ⅱ) 等式と不等式の証明(数学Ⅱ)	15	県連模試
5月		中間考査	複素数と2次方程式(数学Ⅱ) 高次方程式(数学Ⅱ) 点と直線(数学Ⅱ)	17	
6月		期末考査	円の方程式(数学Ⅱ) 軌跡と領域(数学Ⅱ)	18	県連模試
7月	県連模試	スタディーサポート	三角関数(数学Ⅱ)	20	

■予習で磨く思考力、復習で鍛える解答遂行力
(予習) ①教科書を読み、大切なところをチェックする
②例題を解く
③分からないところを明確にする
※授業終了時には、次時の予習ページを告知する。(目安は3～4ページ/1時間)

■入試準備問題演習の取り組み方
(予習) ・予習で思考力(解法を見つけ出す力)を磨く
・実験する、式にする、図にする、論理(必要、十分、同値)を駆使する
(授業) ・授業でポイントを学ぶ(予習段階ですっきりしなかった事柄を解決する)
・手がかりのつかみ方、解法の比較、計算の技術、答案作成上の注意事項などを学ぶ

※学校資料を基に編集部で作成。

●成果と展望
互いの気づきや疑問を
財産とする学びの集団に

値である y を代入して極大値と比較しなくても、 y で最大値を取ることが分かることを、本時の授業のポイントの一つとして伝えました。

私が数学の授業を通して実現を目指すのは、思いの強い小集団のメンバーが、周囲に影響を与えながら大

きな集団を牽引するクラスづくりです。全体を引っ張る小集団のメンバーは、固定したのではなく、直面した課題に応じて変化していきます。

授業後、気づいたことや疑問を生徒が主体的に語り合う様子を見て、教室全体に学びを広げる土壌が培われてきたと感じています。机間巡視中、私が意図的に、「○○さん、よい気づきだね」といった感嘆の声を上げると、すぐに他の生徒たちが、自席を離れてその生徒に話を聞きに行

VIEWnext ONLINEでは、本時の授業の様子をダイジェスト動画で紹介!



VIEWnext ONLINE 検索

き、再び自席に戻って話し合うのはあたり前のことになりました。教室の中で生まれたアイデアは、自分たちの共有財産だと考えられるようになったことは、大きな成果です。

授業後も問題に取り組み生徒たちからは、難問であっても簡単には諦めない粘り強さを感じます。初見の問題でも、周囲からヒントをもらいながら考え続ける生徒が増えたと思います。授業で生まれた疑問を「分からなかったこと」と捉えるのではなく、探究する価値のある問いと受け取れるようになることは、学び続ける上でとても重要です。人生を通じて問い続け、思考し続けるといつ、まさに教科を超えた力を、数学の授業で高めてほしいと思っています。

単元の指導計画

【教科・科目】数学・数学Ⅱ 【分野・単元】微分法と積分法/微分法 【テーマ・作品】3次関数のグラフの対称性 【設定時数】全13時間(本時は7時間目) 【単元目標】微分法について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。

時数	学習内容	身につけさせたい資質・能力	授業の流れ	教師の配慮	評価方法
1	・単元目標の共有 ・平均変化率と微分係数(定義)	気軽に話せる場で思いつことを意見交換しながら、思いつきを予想・確信に高める。 【知識・技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】	①既習の1次関数、2次関数と比較して、3次関数のグラフを予想させる。 ②接線の傾きに注目するという概念・アイデアと単元目標を共有する。 ③平均変化率と微分係数(定義)を理解させる。	【主体的な学び】自分自身のアイデアを生かして、間違いを恐れずに自由に発想できる雰囲気大切に。【対話的な学び】思いつきが妥当か、根拠を挙げながら予想させる。【深い学び】自分自身の思いつき、他者の思いつきから、妥当な予想を立てるように指導する。	・主体的・対話的に取り組んでいるかを見取る。 ・根拠を挙げながら思考を深めているかを見取る。
2	微分の定義 $(x^n)' = nx^{n-1}$	数列等、他の単元で学んだことも生かし、規則性を意識しながら予想・計算を進める。 【知識・技能、思考力、主体性】	①定義に従って微分することで $(x^n)' = nx^{n-1}$ ($n=2,3,\dots$)を導かせる。 ※二項定理にも踏み込む。 ※数学的帰納法には深入りしない(余裕のある生徒には質問を投げかける)。	【主体的な学び】これまでに学んできた具体→一般、単純→拡張の原則に沿って自ら学習を進めさせる。【対話的な学び】成果を仲間と共有・確認しながら学習を進めさせる。【深い学び】定義(知識・技能)の確実な習得に加え、数学的な見方・考え方を生かしながら、予想、検証、確認するように促す。	・主体的・対話的に学びを進め、自己の理解・思考を広げ、深めているかを見取る。
3	関数の実数倍、和、差、積の微分	・前時の復習をしつつ、円滑に学習を接続する。 ・具体例の理解を基に抽象化することで、概念を形成し、確かな表現ができるようになる。 【知識・技能、判断力、表現力、主体性】	①前時の復習(定義に従って微分する) $n=1,0$ の場合の検証も行う。 ②実数倍の微分、関数の和の微分・差の微分、関数の積の微分について、定義を基にして性質を確認した上で練習を行う。 ※積の導関数(数学Ⅲ)には深入りしない。	【主体的な学び】疑問を残さないように注意を促すことで、新たな学習課題を持たせる。【対話的な学び】仲間の学習状況にも気を配り、成果を共有させることで、学び合う集団の活性化を図る。【深い学び】具体と抽象を行き来させることで、抽象的な表現に慣れさせ、抽象的な思考力の育成・概念の形成を図る。	・定義に従って微分することができているかを見取る。 ※定義と図形的意味がリンクしているか。
7	3次関数のグラフの対称性 ※生徒の学習状況、授業の進度に応じて、適切な時期にこの内容を取り上げる →対称性に関する一般的な証明は、積分法の後に取り扱う	・個々の発見、気づきを仲間と共有することにより、主体的・対話的に学習を進め、深い学びにつながるように協働する。 ・薄々気がついているが、言葉にならない発見を、仲間や教師の手を借りて拾い上げる。 【知識・技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】	①生徒の言動から学習課題を拾い上げ、クラス全体の学習課題とする。 ・想定される事項 1 極値の有無 2 変曲点に関して対称 3 凹凸に関する考察 4 $y=f(x)$ のグラフと $y=f'(x)$ のグラフの関係 5 極値と同じ y の値を取る x の値 ※生徒から出てこない場合は、教師から問いかける。 ※必要に応じて、「因数定理」について指導する。	【主体的な学び】発見するワクワク感を大切にさせる(急がせない)。【対話的な学び】「なぜ」と問いかけること、その問いに理由をつけて答えることを指導する(あまい言葉や許容し、できる限り数学的な表現に言い換えられるとよいとする)。【深い学び】生徒相互による答案の検討、教え合いによって、個の学びの成果を共有するだけでなく、個人が自身の理解を深化・拡充させることをねらう。	・「なぜ」という問いかけ、「～だから」という対話を行っているかを見取る。
8	方程式への応用	・方程式に应用する(グラフと方程式の解の関係について理解し、習熟する) ・できる限り数学的な表現を用いて満点答案を作成する 【知識・技能、思考力、判断力、表現力、主体性、協働性】	①3次方程式の解の個数だけでなく、解の正負、解の大小についても理解させる。 ②これまでに学んだことを基に、満点答案を作成するように意識させる。 ※自分たちの手で導き出した「3次関数のグラフの対称性」も確認・活用させる。 ※余裕のある生徒には、「接線の引ける本数」の問題等を提示する。 (授業計画表の配布)	【主体的な学び】「静かに取り組む時間帯」「意見交換をする時間帯」を設定し、学習の活性化を図る。【対話的な学び】「静かに取り組む時間帯」「意見交換をする時間帯」を設定し、学習の活性化を図る。 【深い学び】他者との対話で得たことを、自身の納得感や理解の深化につなげるように働きかける。	・自分の力で解きたいと考えて取り組んでいるか、表情、教室の雰囲気から推測し、見取る。

※西先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全13時間分は、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』(<https://view-next.benesse.jp/>)からダウンロードできます。「TOP →学校教育情報誌『VIEW next』 →高校版バックナンバー」をご覧ください。

「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力が、これからの大学入試で希望進路を実現するために必要とされることを検証し、そうした力を生徒に育む教師の指導や支援のあり方・方法を、実践事例を通じてお伝えしたVIEWnext高校版 2021年8月号・特集はこちら ▶



「マイ・ストーリー」とは、生徒一人ひとりの「自分のこれまでの学びや活動、その成果や結果に至るまでのプロセス、これからの展望」を指す。総合型選抜や学校推薦型選抜（以下、推薦型選抜）を始めとするこれからの大学入試に向けて、「マイ・ストーリー」を描き、それを語れる力を生徒に育む実践事例を紹介する。

2年次

推薦型選抜の準備

支援開始を早期化。1対1で「なぜ」と

繰り返し問い、希望進路を明確化

千葉県・私立日出学園中学校・高校

マイ・ストーリー 2年次の課題

- ・ 推薦型選抜を志望する生徒に、早めに対策に取り組み覚悟を持たせる
- ・ 足りないものを補ったり、軌道修正したりすることができるように、「マイ・ストーリー」を突き詰めて考えさせる

2年次の9月に説明会を開き、 推薦型選抜受験の覚悟を問う

首都圏の私立大学への進学者が多い千葉県・私立日出学園中学校・高校は、推薦型選抜志望者を教師が1対1で支援するメンター制度を、2年次の10月から実施している。2015年度に同制度を設けたが、それまでの推薦型選抜の指導は、生徒から受験の相談を受けてから始めていたため、多くの場合、3年次に慌てて着手する状況だった。しかも、推薦型選抜志望者の進路意識に課題があったと、高校2学年主任の坂井郁子先生は語る。

「特に指定校制の推薦型選抜では、早く進路を決めたいだけの生徒が少なからずいて、志望する学部・学科で学びたい理由を明確にすることができないまま、進学する生徒もいました。大学進学の間機を内発的なものに変えるには、生徒が進路に向き合う時間が必要だと痛感しました」

そうした課題を踏まえ、推薦型選抜の指導を次のように改めた（図）。2年次の9月、これまでの推薦型選抜の合格体験談を踏まえつつ、教師が推薦型選抜の仕組みを解説する説明会を実施。推薦型選抜志望者は、10月までに、志望校の3つのポリシーと志望理由を

まとめて進路指導部に提出する。進路指導部は、生徒の志望学部に応じて、また、人数が偏らないように、各教科に生徒を割り振る。そして、各教科内で、指導を担当する教師を決め、入試本番に向けて、志望理由書の作成や模擬面接などの指導を1対1で行う。

説明会には、1学年のうち約8割が参加するが、その後、書類を提出するのは20〜40人だと言う。説明会は、推薦型選抜対策に本気で取り組む覚悟があるかを問いかける場だと、進路指導部部長の竹村和晃先生は話す。

「1年次から推薦型選抜の仕組みや求められる力について説明していますが、大学の推薦型選抜対策に対して楽観的な生徒や保護者は少なくありません。説明会では、推薦型選抜対策と並行して一般選抜に向けた学習にも取り組む重要性を、総合型選抜に不合格だった卒業生の実例を交えて伝えていきます」

「自分に足りないもの」を考えさせ、 生徒の自発的な行動につなげる

1対1の指導では、生徒との丁寧な対話を大切にしていると、竹村先生は語る。

「対策の開始時点では、生徒の志望理由は『〇〇大学に興味がある』といった程度にとどまっていることが多いです。そこで、教師が『なぜ』と繰り返し問いかけることで、生徒が興味を持った理由を掘り下げて、『マイ・ストーリー』につながる自分の思いに気づけるようにして

メンター制度による指導を行うまでの準備と、指導の具体例

高校1年次

- ・在校生の保護者による職業講演会を実施。
- ・保護者会で推薦型選抜を中心に大学入試制度について説明。
- ・各大学のオープンキャンパスでの模擬講義や、オンラインの模擬講義を受講し、感想を提出。
- ・志望校の検討に向けて、大学・学部・学科を比較研究。

高校2年次9月

推薦型選抜の説明会を実施。卒業生の推薦型選抜の体験を伝え、推薦型選抜の仕組みや推薦指導の進め方を説明。

高校2年次10月

推薦型選抜志望者は、志望校の3つのポリシー、志望理由をまとめて進路指導部に提出。

提出書類で生徒の進路意識や志望学部を把握し、その内容に応じて、担当教科を割り振る。教科内で担当教師を決め、順次、「マイ・ストーリー」を語れるようになるための支援を開始。

指導例



能見先生 まず、志望理由書を書かせ(活動履歴、将来の希望、志望校のアドミッション・ポリシーの箇条書きでも可)、志望学部に関する知識不足、熱意を伝える材料不足など、「マイ・ストーリー」の中で補う部分を浮き彫りにして、生徒に助言。書く材料がそろってきたら、志望理由書の作成を本格的に始め、その内容を基に面接対策を行う。



坂井先生 志望の学部系統に関連する新聞記事の要約と意見文を週1回程度、提出させる。並行して、志望校の書式で志望理由書の作成を始め、3年次1学期末までにいったん仕上げる。該年度の募集要項が出たら、実際の書式に合わせて調整し、志望理由書を完成させ、その内容を基に、面接や小論文の対策を行う。

※学校資料と取材を基に編集部で作成。



左から/竹村和晃(進路指導部部长)、皆川真由子(高校1学年副担任)、坂井郁子(高校2学年主任)、能見太郎(高校3学年主任)

学校概要

- ◎設立 1950(昭和25)年
- ◎形態 全日制/普通科/共学
- ◎生徒数 1学年約160人
- ◎2022年度入試合格実績(現役のみ) 国立大は、埼玉大、千葉大、東京外国語大、東京海洋大、東京学芸大、愛媛大、長崎大、石川県立大に13人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、上智大、中央大、東京理科大学、明治大、立教大、早稲田大などに延べ530人が合格。

ウェブオリジナル記事では、教師が生徒と対話を進める方法や、メンター制度に関する課題と展望などを紹介!

VIEWnext ONLINE ▶▶



います。そうした働きかけは、1対1だからこそできることであり、時間も必要です」

支援の進め方は、各教師がそれぞれ工夫している(図)。高校3学年主任の能見太郎先生は、担当した生徒には最初に、これまでの活動と将来の希望、志望校のアドミッション・ポリシーを書かせ、それが「マイ・ストーリー」になっているかを問いかける。

「多くの生徒は、志望校への熱意を説得力のある具体例とともに表すことができません。現時点での『マイ・ストーリー』を振り返り、何が足りず、それをどう埋めればよいかを、生徒と一緒に探ることから対策を始めます」

2年次10月からメンター制度を実施することで、「マイ・ストーリー」に足りないものを補う時間を持つことができる。また、志望大学・学部に関連した資料を、志望を変更したとしても、十分に対応することができる。例えば

ば、臨床検査技師の資格取得が可能な生物系学科の指定校制の学校推薦型選抜を志望していた生徒は、最終的に、臨床検査技師の専攻がある大学の学校推薦型選抜を受験した。指導を担当した高校1学年副担任の皆川真由子先生は、生徒の意識の変化をこう振り返る。

「その生徒は、資格が取ればどの大学でも同じと考えていたので、『なぜ、資格を取りたいのか』『大学で何を学びたいのか』と、将来の展望の視点から何度も問いかけてきました。すると、大学・学部について詳しく調べるようになり、専門的な学科の方が授業や実習でより実践的に学べるからと、志望校を変更しました。選抜方式が変わり、勉強が大変になりました。生徒は頑張り、無事に合格しました」

推薦型選抜の支援体制が整い、各教師に支援ノウハウが蓄積されてきたことから、今後は全校でそれらの共有を進めていく考えだ。

資質・能力の視点からの自己理解

1・2年次

興味・関心や 適性を深掘り、 将来像を描く

就職指導担当の教師が指導上の問題の1つとして挙げるのが、将来像を描けないまま3年生になる生徒が少なくないことだ。それは、普通科の生徒に限ったことではない。専門高校に勤務するある教師は、「明確な将来の目標を持っている生徒は半数以下。中学校時代に勉強が苦手だったため、周囲に勧められるまま、現在の在籍校に進学した生徒が多く、将来像が描けていない」と、実態を語る。その教師の高校では、将来像が少しでも描けるよう、1・2年生を対象にしたインターンシップや企業説明会を充実させているが、自分の興味・関心や適性を深掘りすることのないまま3年生になり、規模や知名度で志望企業を選ぶ生徒が少なくないという。そこで今回は、社会や企業について知ることに加えて、自分を知るための活動に力を入れていく広島県・広島市立広島工業高校の取り組みを紹介する。

実践事例

「社会」と「自分」を知り、つなげる 広島県・広島市立広島工業高校

自分の持つ資質・能力を把握し、 学校生活をマネジメントする

広島県・広島市立広島工業高校では、社会や企業についての理解を深めるため、1年次から社会人や卒業生の話を聞いたり、企業の工場を見学したりする機会を積極的に生徒に提供している。そうした「社会を知る」活動に加えて力を入れているのが、「自分を知る」活動だ。社会人や卒業生の講話を聞いたり、働く現場を見たりする中で理解が深まった実社会と自分をつなげるためには、自分の興味・関心や適性を知ることが欠かせない。

能力を意識しながら学校生活を送るために、年間を通して生徒が取り組むのが、進路指導部の山川祐也先生が考案した「プランニングシート」と「セルフマネジメントシート」の作成だ(図)。

『人の話を聴く力』『自分で動く力』など、VUCAの時代(※2)を生き抜く上で必要な10の資質・能力を進路指導部で決めました。自分はどうな強みや弱みを持っているのか、どの資質・能力を伸ばすために、どのように直近の高校生活を過ごすのかを、シートを使って生徒自身が考えます」

「プランニングシート」の作成には週に1回、「セルフマネジメントシート」の作成には学期に1回取り組む。そのような頻度にしたのは、自分の強みを発揮できるのはどんな場なのかを日常的に考えながら、社会人講話や工場見学に臨みたいという思いからだ。また、「プランニングシート」で、目先の行事などを通じて身につけたい資質・能力を具体的に意識させることで、生徒の行動目標が、「頑張る」といった曖昧なものから、「帰宅後、○

* 1 ベネッセの教材の1つで、社会とのかかわり方から、探究のプロセスに沿って進路を考えるための教材。

* 2 Volatility (変動性)、Uncertainty (不確実性)、Complexity (複雑性)、Ambiguity (あいまい性)の頭文字を取った造語。

変化の激しい社会に飛び込む生徒に伴走

図 自分を知り、自分を育てる2つのシート

振り返り日 → 6月 8日 (水) (次回の授業日)

① 「セルフマネジメントシート」から身に付けた力を1つ選んでください。

番号	身に付けた力
4	協力する力

② ①で選んだ力を身に付けるための行動目標（どのようにしていくか）を設定しましょう。最低限1つは実際に行動するのは学校内・学校外どちらでもかまいません。

● 行動目標を立てるときのポイント

- ・達成可能か（難し過ぎず易し過ぎず）
- ・具体的か（いつ、どこで、何をやるのか）

行動目標（どのようにしていくか）

・校内で友人や先生と会う時、必ず自分から先にあいさつをする。

・部活動の準備や片付けの時に、友人に声をかけ、協力して取り組む。

③ 振り返りをしましょう。【達成度】のあてはまる番号に○をつけ、具体的にうまくいったところ及び改善点を書きましょう。

【達成度】

1 (全く出来なかった) 2 (あまり出来なかった) ③ (少し出来た) 4 (まあまあできた) 5 (かなり出来た)

うまくなったところ	改善点
・あいさつを積極的にすることができた。	・時々あいさつが聞こえていなかったようなので、もっと声を出してあいさつをするように心がける。
・友人に声をかけ、率先して準備や片付けができた。	・友人とおしゃべりに熱中してしまうことがあったので、メリハリをつけて準備や片付けに取り組む。

身につけたい力をどのような行動を通じて身につけるのかを考える「プランニングシート」

生徒が自分と社会をつなげて進路を考えること

教師が問う「なぜ」に答えながら、自分と社会をつなげる

○に15分間取り組む」といった具体的なものに変わるという。

番号	身に付けた力	具体的な力	4月	合計	7月
1	人の話を聴く力	相手の話を聴くことができる。 相手の意見を理解しようすることができる。 質問などをして、相手の思いを引き出すことができる。	1 2 3 4 5 1 2 3 4 5 1 2 3 4 5 /15		1 2 3 4 1 2 3 4 1 2 3 4
2	理解する力	自分の興味や関心、強み弱みなど、自己理解ができる。 相手の気持ち、個性等を理解することができる。 意見の違いや立場の違いを理解することができる。	1 2 3 1 2 3 1 2 3		1 2 3 1 2 3 1 2 3
3	自分で動く力	甘い自分に負けず、ものごとに取り組むことができる。 自分の意見を持って、ものごとを選択することができる。 他人任せにせず、自分で率先してものごとに取り組むことができる。	1 2 3 1 2 3 1 2 3		1 2 3 1 2 3 1 2 3
4	協力する力	あいさつ等、他者と積極的に会話ができる。 他者に協力を頼むことができる。 他者と話し合いながらもものごとに取り組むことができる。 こうなるともっと良くなるといった理想を持つことができる。	1 2 1 2 3 1 2 3 1 2 3		1 2 1 2 3 1 2 3 1 2 3

自分の強み・弱みのバランスをレーダーチャートで確認しながら、今、自分はどのような力を伸ばすべきなのかを考える「セルフマネジメントシート」

※レーダーチャート作成例
一番外側の数字は上記の身に付けた力の番号です。各番号の合計点に点を書いて、線で結びましょう。
例)
1人の話を聴く力 → 10点
2理解する力 → 8点
3自分で動く力 → 12点
4協力する力 → 5点

※学校資料を基に編集部で作成。

は、容易なことではない。そのため、生徒が腰を据えて考える時間をつくるのが大事であると、進路指導主事の川島丈司先生は説明する。

「近年の生徒は忙しく、じっくりと考える時間が少ないと思います。本校では、全教師がチューターとして、1人あたり5人程度の生徒を担当し、放課後などに個別面談を行っています。面談では、



進路指導主事
川島丈司 かわしま・じょうじ
教職歴8年。同校に赴任して8年目。



進路指導部
山川祐也 やまかわ・ゆうや
教職歴7年。同校に赴任して6年目。

学校概要

◎ 設立 1924 (大正13) 年 ◎ 形態 全日制/機械科、自動車科、電気科、情報電子科、建築科、環境設備科/共学 ◎ 生徒数 1学年約240人
◎ 2021年度進路実績 (現役のみ) 4年制大は、東京藝術大、近畿大、広島経済大、広島工業大、広島修道大などに延べ39人が合格。短大・専門学校進学39人。就職144人。

「この仕事が合っていないそうだね」などと教師が答えを与えるのではなく、『どうしてその仕事がよいと思ったの?』などと生徒に問いかけ、考えさせるようにしています」

ある生徒は、川島先生の「なぜ?」という問いかけに答えるうちに、自分の思い込みに気がついたという。

「その生徒は、1年生の時から、ある企業を目指していましたが、1年間私と話し、自分の適性を考える中で、より自分に合った別の道が見つかったと、まるで思い込みから解きほぐされたような爽やかな表情で私に話してくれました」

変化の激しい時代においては、社会を知ることに加え、自分の強みや弱みを意識して、高校生活を過ごし、進路選択に臨むことが必要だと、川島先生と山川先生は考えている。



チーム 新課程 学年主任

Supported by
ベネッセ文教総研

3月

のポイント

本コーナーはハイスクールオンラインの〈先生SNS〉のコーナーと連動しています。〈先生SNS〉では、詳細の情報・資料をご提供しています。また、先生方が直面される課題やその解決方法の共有の場としてもぜひご利用ください。

ハイスクールオンライン 〈先生SNS〉

<https://teacher.benesse.ne.jp/>



※ハイスクールオンラインのIDをお持ちでない先生は、校内でご確認いただくか、WEBサポートデスク0120-350124までご連絡ください。
【受付時間】月～金8:00～18:00/土8:00～17:00（祝日、年末・年始を除く）

ここからお入りください

ほかの先生に相談したい時は⇒相談室へ
使える資料で負担軽減⇒資料室へ



「先生SNS」サービス終了のお知らせ

「先生SNS」は、2023年3月25日（土）をもってサービスを終了させていただくことになりました。「チーム新課程学年主任」のコンテンツは、以下の場所に転載します。

● Benesse High School Online
TOPページ > 指導 > 新課程 > 指導と学習評価
※「過年度のピックアップを見る」で「2022年度」を選択してご覧ください。

第2学年に向けた準備・計画と、 次年度の第1学年への引き継ぎ

年度末になり、先生方におかれましては、通常のご校務に加え、高校入試への対応や年度末評価の指導要録への記載、次年度の年間計画の立案など、最もお忙しい時期ではないかと思えます。

特に、第1学年主任として、次年度の第2学年の年間計画や指導内容の検討に加え、次年度の第1学年主任の先生への引き継ぎのご準備などもされているところかと存じます。

この1年間、「チーム新課程学年主任」の活動として、ウェビナーや双方向の情報交換会などを開催して参りました。そこでいただいた先生方の声やアンケート結果などを基にまとめた、「新課程学年運営の指導デザイン」を、3月中旬にハイスクールオンラインにてリリースする予定です。

「新課程学年運営の指導デザイン」の内容としては、大きく2点あります。

1点目は、新課程初年度の解説です。新課程の特徴や大学入試の変化、新課程1期生の特徴などをまとめる予定です。

2点目は、新課程学年運営の年間計画例です。学年方針と年間計画例について、「一般選抜重視校」「学校推薦型・総合型選抜重視校」など、学校タイプ別の事例を複数ご紹介させていただく予定です。さらに、学校の教育活動や指導計画に合った内容にアレンジすることができるよう、加工可能なデータファイルをダウンロードする形でご提供しますので、今後の年間計画などの作成にご活用ください。

先生方とともに駆け抜けてきた1年でしたが、今後も、新課程1期生の成長を注意深く見取る先生方のお役に立つ情報を提供して参りたいと考えております。

3月中旬 リリース予定

新課程学年運営の指導デザイン

- 内容 (1) 新課程1期生の特徴 (2) 年間計画のポイント (3) 年間計画 実践事例

◎ 広島県・私立修道中学校・修道高校 新課程高校1年生版 年間計画（抜粋）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
進路 & 探究	二者面談 高校生活 放課後学習会 生徒との会話	大学の学部・学科 紹介の動画視聴	先輩の 合格体験記を読む	保護者面談 7/2～ ・文理選択について 大学研究室 訪問 7/9・10	夏期補習 ・国数英 既習範囲復習 ・大学入試に向けて 卒業生講演 8/19	二者面談 ・模試データ活 用 文理選択 ～10/28 ・定期試験・模試のデータを参考	進路講 10/ 保護者
目標	自宅学習「最低2時間」 「Classi」からの学習情報にも注意			探究学習と教科学習の積み上げ 高校の既習範囲を自分で復習			
集団の成長曲線	3年間で【一番大切な期間】 この時点までに自学習2時間が身につけていないと、 学習時間・習慣は2年間変わらない!!!!!!			教え合う→高めあう 協動的な学習を通して 互いに高い志を持ち 集団としても成長する時期			
探究学習 (23コマ)	修道中学校・修道高校では、「進路 & 総合的な探究の時間の大きな流れ」 「指導目標」「集団の成長曲線」「探究学習の具体的な活動内容」「LHR の具体的な活動内容」など、教育活動を俯瞰できる年間計画を立案し、 教師間で共有した。						
LHR (23コマ)							
評価・検証	ルーブリック			アンケート1回目			

第2学年に向けた 準備・計画

新課程世代の 生活指導・進路指導へ

平井 学

静岡県・私立静岡学園中学校・高校

高校1学年主任



初めて学年主任となり、右も左も分からないところに、生徒の質の変化や働き方改革、「コロナ禍、そして新課程対応が加わり、まさに苦闘の日々でした。」「チーム新課程学年主任」で、同様の苦労をされている先生方の存在を知り、問題解決に向けて多くの気づきをいただきました。

学習評価の3観点は授業に限定するものではなく、生活指導や進路指導にも反映すべきものです。一方で、生徒が思考力や主体性を履き違えると、やすきに流れることになってしまふ恐れがあります。

この1年間の指導を振り返ると、特に生活指導の場面で、生徒の思考力や主体性を引き出す仕かけが足りなかったと反省しています。多様性を取り違え、忍耐力に欠け、自己中心的な行動をする生徒が増えていくように感じます。生徒の考えや主体性は認めながらも、誤りは正すことができるよう、2学年進級を前に、いま一度、生徒に求める人間性やあるべき姿を学年団で共有したいと考えています。

進路指導では、2学年、3学年と進級するに従って、大学入試という現実への落とし込みを意識しなければなりません。「総

合的な探究の時間」において、進路選択や進路実現の手段に有効に結びつけるプログラムをつくるのが喫緊の課題です。

また、思考力や主体性は、確実な知識・技能の上に成り立つものであり、大学入試の問題も知識がなければ解けません。新課程世代の生徒は、興味を持ったことには熱心に取り組むものの、地道な知識の積み重ねや、集中して学習に取り組むことが苦手であるように感じます。学習の基礎体力をつけることも忘れずに、バランスを取った指導をしていくつもりです。

生活指導、進路指導ともに、生徒一人ひとりの状態や適性を見極めながら伴走することが教師には求められます。働き方改革が叫ばれる昨今ですが、教師が生徒に対して負うべき責任や果たすべき役割は、新課程の下でさらに増大しています。学年の先生方が生徒の取り組みを見取り、丁寧な導きができる時間を確保できるようマネジメントすることが、学年主任の役割だと考えます。時に孤独を感じるポジションですが、「チーム新課程学年主任」の先生方から勇気と気づきをいただきながら、進んでいくつもりです。

第1学年への 引き継ぎ

探究を中心に活動を束ねる

「年間計画」づくり

野上 知宏

広島県・私立修道中学校・修道高校

高校1学年主任



「コロナ禍における学びの変化、そして教育課程の変わり目となった2022年度当初を振り返ると、先が見通せない不安の中、どのような教育プログラムが望ましいのか、どのような教育ビジョンを教師間で共有することが求められるのかといったことを、日々学年主任として模索していただよう思います。

また、本校での「総合的な探究の時間」での取り組みは、本校の生徒として身についてほしい価値観・スキルを定めたルーブリックを踏まえた初めてのものであり、実践がない中、手探りの状態でカリキュラムを積み上げた1年であったと思います。

本来であれば、学校行事や進路指導などを基に、年間計画を4月に示した上で、教師並びに生徒と、学年に所属する生徒が1つの集団として成長していく方向性について議論しなければならなかったのですが、その計画を立てることはできませんでした。

私の思いとしては、「総合的な探究の時間」を軸として、個々の生徒に「自己効力感」や「自己肯定感」を持たせる取り組みと、探究学習での協働的な学びを通して、

自分自身が導き出したテーマや課題に、しっかり向き合い、解決策を生み出す力を養う1年間にしてほしいということがあり、それを基本線に持つて企画を進めて参りました。

具体的には、「LHR」と「総合的な探究の時間」の計画を取りまとめたことにより、時間に余裕が生まれ、柔軟に対応できたと感じます。また、アンケート調査を行い、個々の自己評価の推移を見ることで、生徒たちの成長を確認し、教育ビジョンを教師間で確認することもできました。

さらに、動画などを用いて、教師間の意識統一、及び負担軽減などを図ることに伴い、進路指導においても新しい取り組みを行うことができました。

次年度、1学年団に所属される先生方の参考に少しでもなればという思いで、本校の年間計画を提供させていただきました(P.52)。改めて1年間を振り返っても、教科学習以外の面も含めた多面的な観点で、生徒たちの成長を見届ける必要性を感じた日々であったことは、間違いないと思っております。



育児休業明け、最初に訪問したのが、今号の「指導変革の軌跡」でご紹介した東京都・私立日本大学第三中学校・高校でした。2年ぶりの取材で緊張しましたが、探究推進委員の先生方の雰囲気がよく、終始、和気あいあいと楽しい取材でした。改革がうまく進んでいる学校は、風通しがよく、世代や分掌に関係なく本音が言い合える組織になっていると、取材の度に感じます。

写真は、探究推進委員会が校内研修のために作成したものです。取材中、先生方が端末を使う場面が何度かあるほど日常的にICTを活用している同校ですが、必要な時はアナログのものも用いる柔軟さも感じました。誰かのために作成したものは、どんなものでも温かみを感じます。「あなた」のために編集部が真心こめて製作した今号は、パレンタインデーの翌日、本日の発刊です。ぜひ、チョコレートと一緒にご賞味ください。(荻原)



VIEWnext
電子ブック
高校版は

電子ブックで閲覧できます

『VIEW next』高校版、『VIEW21』高校版2020年4月号以降の記事は、電子ブックでご覧いただけます。ウェブサイト『VIEW next ONLINE』でご確認ください。

HOME → 学校教育情報誌『VIEW next』 → 高校版バックナンバー

<https://view-next.benesse.jp/>

VIEWnext

高校版 2023年4月号

4月14日発刊

(予定)

『VIEW next』高校版は
年6回の発刊です

先生方からのご意見を
紹介します

Reader's VIEW

2022年12月号へのご意見

進路指導におけるICT活用は画期的

12月号の特集を読み、ICTをすぐに利用するためには、まずは環境整備が重要だと分かった。各教科による違いを含めた活用方法もよく理解できた。個人的には、書く力(数学、理科)が必要だと考えており、その力を引き出す手段として、ICTの活用方法が分かったような気がする。大阪府・私立関西学院千里国際中等部・高等部が、進路指導においてICTを活用していた方法は画期的だと思う。本校の教師も同様の取り組みをしており、効果が上がっている。愛媛県立今治東中等教育学校 大谷修一

端末を使う目的を生徒と共有することの大切さ

12月号の特集で紹介された広島県・私立修道中学校・修道高校の実践を読み、端末を使う目的を生徒としっかり共有することの大切さを再認識した。時には「○○○のために端末を活用する」のように使用目的を限定し、それ以外の使用については生徒に注意することがあると思う。そうした注意により、せっかくの端末を生かしきれていないのではと感じていた中でこの記事を読み、考えるきっかけとなった。

大阪府・私立羽衣学園中学校・高校 小竹孝弘

理数以外の教師も「情報」の指導にかかわれる可能性

本校では「情報I」を2年次で履修するため、3年次の受験対策としての課外授業をどのように実施するか悩んでいる。数学や理科の教師が担当するだろうという雰囲気はあるものの、情報免許を持っている教師が極めて少なく、解決の糸口が見えていない。12月号の「新課程レポート」の記事を読んで、理数以外の教師もかかわれる部分があることを知り、教科を超えて分野ごとに複数の教師でかかわることが可能であることが一つの方向性として見えた。実現の有無は別にして、選択肢が1つ増えたのはよかった。

茨城県 匿名希望

同じ学年主任としての思いに勇気づけられた

12月号の「輝く学年団を訪ねて」では、富山県立富山工業高校の高橋かずまさ一誠先生が「学年主任よりも担任をやりたいと悩んだ時期もありました」と述べていた。2学年主任である私にも、その思いがある。ただ、学年主任を任された以上は、高橋先生と同じく、担任が動きやすいように、負担を少しでも減らして生徒との時間を長く持つことができるようにと考えている。自分と同じ思いを持つ先生がいることに、とても勇気づけられた。

香川県・私立大手前丸亀中学・高校 高畑雅史

教師の「聴く」は、進路指導の神髄をつく指導

12月号の「クローズアップ! 就職指導」で紹介された、宮城県・石巻市立桜坂高校の進路指導部の重点テーマは、「聴く」であった。アウトプットの重要性が語られる中、教師の「聴く」が、自然に生徒のアウトプット、そして、自分との対話を引き出すことに改めて気づかされた。進路指導の神髄をつく指導だと感じた。岩手県・私立専修大学北上高校 川村俊彦

VIEWnext 編集部からのお知らせ

これからの学校を担う！
 若手教師・教育創造 MTG 教師メンバー企画 **オンライン勉強会のご案内**

第3弾 「教師がイキイキ・ワクワク語る会」

～わたしたちはどのように生き、どこへ向かいたいのか～

企画：埼玉県立朝霞高校 浅見和寿

開催日時 2023年3月28日(火)
13時～15時

参加申し込み締め切り 2023年3月21日(火)

浅見先生の動画メッセージと
当日の詳細はこちらから！

形式 オンライン(ライブ配信)
※お申し込みいただいた方に、
詳しい参加方法をご案内します。

参加費 無料

参加申し込み方法

右の2次元コード、または下記 URL から登録してください。
<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article14028/>



VIEWnext ONLINE ウェブオリジナルコンテンツ 続々リリース！

TOPページ → 学校教育情報誌『VIEW next』からご覧いただけます。

本誌連動 記事

「もっと知りたい!」の声にお応えして、誌面でお伝えしきれなかった内容をご紹介します。

これからの
進路指導のための
世の中 **トレンド** 解説

今号
P.38 と連動

マイ・ストーリーを語る
生徒を育む進路指導

今号
P.48-49 と連動

ダイジェスト 動画

誌面で紹介した授業実践が動画で見られます。今号は、「国語」と「数学」の授業です。

発問・課題設定をキーに見る

主体的・
対話的で
深い学び

授業実践

今号 P.40-47
と連動



群馬県桐生高校の佐藤真紀子先生による、文化比較の視点を取り入れた古典の授業。



福井県立美方高校の西繁寿先生による生徒の問いを起点にした数学の授業。

アクセスは
こちらから！

URL <https://view-next.benesse.jp/>

検索ワード

VIEWnext ONLINE

検索

2次元コード



VIEWnext のLINEを友だち登録いただければ、冊子の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、VIEWnext ONLINE の該当記事に、**ダイレクトにアクセス**できます！

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中！

友だち登録の方法は、右の2次元コードを読み取っていただくか、LINE アプリの「友だち追加」>「ID 検索」で「@view21」とご入力いただき、追加をお願いいたします。



杉原孝治 先生

Sugihara Takaharu

神奈川県立厚木高校

生き物の
かわいらしさを知って
笑顔の多い日々を

46 億年、懸命に努力し、生きてきた、そうした意味での生き物のかわいらしさを伝えたい―それが私の授業、づくりの原点です。授業では、『パンダは、お肉を食べたいと思わないのかなあ』『人類はマダガスカル島に、どのようにして到達したのか』といった大きな問いを出します。生徒は、その解明のヒントとなる小さな問いに、教科書や資料集などを使って取り組み、生徒同士で考えを出し合いながら、大きな問いを解いていきます。

今年度は、『ペンギンの骨格と歩き方の秘密』という問いを出し、その解明の

ヒントとして、ペンギンが歩く仕かけの模型キットを20組用意しました。国立極地研究所で見た教材を参考に作成したそのキットを、生徒が組み立てて動かすと、「こつこつと歩くんだ!」「かわいい!」といった声が、あちこちから上がりました。ペンギンが一見短い足でどのように歩くのかを、模型の動きを通じて自分の目で確かめたことで、寒い地域に適応したかわいらしさが伝わればうれしいです。

生徒は問いを解く過程で、自分の考えや理解したことに加えて、他者の意見を聞き、共感や違和感を抱いたことも伝え合います。そこで磨かれた、読む、書く、描く、話す、聞く、作る、考える、気づく力によって、探究力や表現力を伸ばしていつてくれたらと思います。自分で見つけ、自分の言葉で理解したことは、ずっと心に残り、表現することができます。

これからも生徒が楽しく笑って過ごせるように、生き物のかわいらしさがたくさん感じられる授業を追究したいです。



生徒より

アリの生態を人間関係に例えたり、血液凝固を排水管に置き換えたりと、杉原先生の解説はユニークで、学んだことを誰かに伝えたくくなります。課題も心と記憶に残るものばかりで、1年生の時に二酸化炭素と森林伐採の関係について調べたことは、3年生の今もすらすら説明できます。疑問点はすぐに調べる習慣もつきました。生き物の魅力を全力で伝えてくれる先生の姿に、好きに勝るものはないことを実感します。大学でも、社会に出てからも、自分の興味・関心は大切にしたいと思っています。

すぎはら・たかはる 教職歴16年。同校に赴任して9年目。総括教諭、グローバル教育推進グループ、理科・SSH(生物・課題探究担当)、2学年副担任。

神奈川県立厚木高校 全日制/普通科/共学/1学年約360人/2022年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、北海道大、東北大、東京工業大、東京大、横浜国立大などに128人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ1196人が合格。

お客様サービスセンター

フリーダイヤル 0120-350455 [受付時間] 月~金8:00~18:00/土8:00~17:00(祝日、年末・年始を除く)

株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17